

平成30年度

シラバス

富山県立富山高等学校

教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数	
・普通科 ・理数科学科 ・人文社会科学科	1	国語	国語総合(現代文)	2	
教科書		副教材			
改訂版 新訂国語総合(現代文編) (第一学習社)		リード現代文 2標準(啓隆社) 頻出漢字マスター3000(尚文出版)			
到達目標	1 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2 思考力や想像力を伸ばし心情を豊かにする。 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 4 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語を伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、確認プリントやテストで、「関心・意欲・態度」を、授業中の質疑応答で、「話す・聞く能力」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。				
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)			
評論(一) 「新しい地図を描け」 「水の東西」		・評論の文章の流れをつかみ、筆者の思いや考えを理解することができる。 ・筆者の論理的な思考方法を学び、自らの思考や視野を拡大することができる。			
表現の実践1・2		・相手に情報が伝わる説明のしかたを身につけることができる。 ・スピーチのしかたを身につけることができる。			
小説(一) 「羅生門」		・短編小説のおもしろさを味わわせ、鑑賞のしかたを学ぶことができる。 ・すぐれた描写、効果的な表現を学び、表現力・感受性を豊かにすることができる。			
評論(二) 「ものとことば」		・文章の論理的な構成を理解し、筆者の主張を正確に把握することができる。 ・自己と世界を取り巻く関係について、意識的に考える態度を養うことができる。			
評論(二) 「ネットが崩す公私の境」		・文章の論理的な構成を理解し、筆者の主張を正確に把握することができる。 ・自己と世界を取り巻く関係について、意識的に考える態度を養うことができる。			
表現の実践3・4		・相手に理解してもらえる説明文について理解することができる。 ・情景や心情の描写を取り入れた、文学的文章を創作する力を身につけることができる。			
言語活動 「情報探索の方法と実践」 表現の実践9		・効果的な情報の収集のしかたを学び、実践することができる。 ・客観的なデータを有効に活用して報告文を作成することができる。			
詩		・近代詩・現代詩に親しみ、鑑賞の方法を学ぶことができる。 ・近代詩・現代詩の技法について学び、想像力を豊かにすることができる。			
随想 「交換は楽しい」		・随想を読み、作者の視点・洞察力・考えを読み取ることができる。 ・視野を広げ、幅広い問題意識を育てることができる。			
評論(三) 「『間』の感覚」		・文章の論理展開の構造を把握し、筆者の言いたいことを読み取ることができる。 ・自然で自明なものを現代的な視点で捉え直す思考や視野を拡大することができる。			
評論(三) 「自分の身体」		・文章の論理展開の構造を把握し、筆者の言いたいことを読み取ることができる。 ・自然で自明なものを現代的な視点で捉え直す思考や視野を拡大することができる。			
小説(二) 「夢十夜」		・小説を読むおもしろさを味わうことができる。 ・小説の主題を読み取る言語感覚を磨き、新しい発見を自覚することができる。			
表現の実践8		・意見文を書くときの注意点を理解することができる。			
小説(二) 「夢十夜」		・小説を読むおもしろさを味わうことができる。 ・小説の主題を読み取る言語感覚を磨き、新しい発見を自覚することができる。			
評論(四) 「『文化』としての科学」		・論理的な文章を読解する技術に習熟することができる。 ・科学の持つ長所と短所を客観的に捉える視点を養う。			
評論(四) 「生と死が創るもの」 短歌・俳句		・論理的な文章を読解する技術に習熟させる。 ・科学の持つ長所と短所を客観的に捉える視点を養うことができる。 ・短歌の形式や表現方法、鑑賞方法を学ぶことができる。 ・俳句の形式や表現方法、鑑賞方法を学ぶことができる。			
評論(五) 「ホンモノのおカネの作り方」		・評論の論旨を適確に捉える力を養成することができる。 ・自分を取り巻く世界を相対的に見る視点を養うことができる。			
評論(五) 「グローバリズムの『遠近感』」		・評論の論旨を適確に捉える力を養成することができる。 ・自分を取り巻く世界を相対的に見る視点を養うことができる。			
評論(六) 「デザインの本意」		・より高度な評論を読み、読解力を高めることができる。 ・やや抽象的な題材に対する正しい理解で自らの思考を深めることができる。			

教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数	
・普通科 ・理数科学科 ・人文社会科学科	1	国語	国語総合(古典)	4	
教科書		副教材			
改訂版 新訂国語総合(古典編) (第一学習社)		完全マスター古典文法、完全マスター古典文法準拠ノート実力養成(第一学習社)、理解しやすい古文、理解しやすい古文演習ノート(文英堂)			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2 思考力や想像力を伸ばし心情を豊かにする。 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 4 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 				
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	古典に対する関心を深め、辞書などを積極的に活用して、進んで理解したり味わったりする。	古典特有の調子を味わいながら音読したり聞いて味わったりする。また感じたことや考えたことを発表する。	古典を読んで感じたことや考えたことを文章にまとめ、表現することができる。	表現上の特色を理解し優れた表現に親しみながら、様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	古典理解に必要な語彙・文語文法・修辭法・句法・古典常識などの知識を身につけている。
学習の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 定期考査で、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認プリントやテストで、「関心・意欲・態度」を、授業中の質疑応答で、「話す・聞く能力」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。				
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)			
古文入門 「児のそら寝」「絵仏師良秀」 物語『竹取物語』 古典文法入門 活用のある自立語(用言) 物語『伊勢物語』 漢文入門 故事成語「借虎威」 付属語		<ul style="list-style-type: none"> ・古文を読むことに面白さを見出し、興味・関心を持つことができる。 ・音読を積極的に行うことができる。 ・歴史的仮名遣いや古語を理解して的確に読むことができる。 ・教材の内容を的確に理解することができる。 ・語句の意味や用法を理解することができる。 ・用言の種類や活用形について理解することができる。 ・中国文化や漢文に関心を持つことができる。 ・漢文訓読の仕方を理解することができる。 ・助動詞や助詞の種類・意味・接続等について理解することができる。 			
随筆『徒然草』 説話 活用のない自立語 漢詩 軍記『平家物語』 日記『土佐日記』 敬語・修辭法 史伝 漢詩「漢詩」 和歌と俳諧「和歌」 種々の文章		<ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容に関心を持つことができる。 ・作品の特色や作者について理解することができる。 ・自立語について理解することができる。 ・唐詩に関心を持ち、唐詩のきまりや技巧を理解することができる。 ・敬語表現法・音便等について理解することができる。 ・和歌等の表現技巧に注意して、その内容を理解することができる。 ・作品の特色や作者について理解することができる。 ・史伝・中国の歴史・文化や、教材の内容に関心を持つことができる。 ・返り点や再読文字・助字等の種類や用法を理解することができる。 ・三大歌集とそれらの代表的歌人について理解することができる。 ・各文章の内容を把握することができる。 			
歌論『俊頼髓脳』 和歌と俳諧「俳諧」 種々の文章 思想「論語・孟子」 小説「桃花源記」		<ul style="list-style-type: none"> ・和歌等の表現技巧に注意して、主題や筆者の主張を理解することができる。 ・俳諧紀行文や評論を読んで、主題や心情を理解し、筆者の主張を理解することができる。 ・各文章の内容を把握することができる。 ・諸子百家の思想に関心をもつことができる。 ・各文章の内容を把握することができる。 			

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・探究科学科	1	地理歴史	世界史A	2
教科書		副教材		
世界史A 新訂版(実教出版)		最新世界史図説 タペストリー(帝国書院)/ふるさと富山(富山県教育委員会)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、特に近現代史を中心として、日本の歴史と関連づけながら理解させる。 文化の多様性や19・20世紀の複雑な多国間関係を広い視野から考察し、理解を深め、将来の国際社会における民主的・平和的な社会の一員としての自覚と資質を養う。 諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身につけさせる。 			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 of 技能	④知識・理解
	近現代を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする。	近現代を中心とする現代世界の特質や文化の多様性を多面的に考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的な事象を追求する方法を身につける。	近現代を中心として世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、多面的に考察する力を身に付ける。
学習の評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 定期考査で②「思考・判断・表現」③「資料活用 of 技能」④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
<ul style="list-style-type: none"> ・主権国家の成立 ・第一次世界大戦とロシア革命 ・戦間期の世界 ・民族運動の高揚 ・第二次世界大戦 ・冷たい戦争 ・第三世界の解放と混迷 ・多極化と冷戦の終結 ・現代の世界 ・地球社会へ向かって 		<ul style="list-style-type: none"> ・中世ヨーロッパの枠組みから新たに近代主権国家が成立する過程を理解する。 ・第一次世界大戦前の国際関係を理解し、大戦にいたる経緯が理解できる。 ・ヴェルサイユ体制の特質と国際連盟の成立について理解できる。 ・ドイツを中心とする国際関係を理解し、第二次世界大戦勃発の理由を考察することができる。 ・東アジア、インド、西アジアでおこった民族運動の背景が理解できる。 ・日中戦争の経緯や第二次世界大戦の経緯が理解できる。 ・米ソの対立とベルリン問題、朝鮮問題が理解できる。 ・中華人民共和国の成立過程、パレスティナ問題について理解できる。 ・冷戦体制の崩壊の要因、EUの成立過程について説明できる。 ・イラク戦争や中東紛争など現代の諸問題について考えるための歴史的背景が理解できる ・近現代史を学んだ上で、平和への努力について考えることができる。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	1	公民	現代社会	2
教科書		副教材		
改訂版 現代社会(第一学習社)		ふるさと富山(富山県教育委員会)、最新図説 現社		
到達目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としてのあり方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	現代社会の基本的問題に対する関心を高め、意欲的に課題を追求し、社会的事象を総合的に考える態度を身につける。	現代社会の諸問題から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としてのあり方生き方について、広い視野に立って多角的に考察し、公正に判断できる。	諸資料をメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し、考察過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	現代社会の基本的問題と人間の在り方生き方に関わる基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身につける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」③「資料活用の技能」④「知識・理解」を評価する。 2 平生の授業に臨む姿勢観察や課題の提出状況、及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
第1編 私たちの生きる社会		様々な「現代に生きる私たちの課題」の問題を理解し、主体的に考えることができる。		
第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方				
第5章 現代の経済社会と私たちの生活				
1 経済社会と経済体制		現代の技術革新、企業の役割、市場経済の機能、GNP・国民所得、経済成長と景気変動について理解することができる。		
2・3・4 現代の企業、市場経済、景気変動		公的部門の役割と租税、金融機関の働きについて理解することができる。		
5・6 政府の経済的役割、金融機関の働き		戦後日本経済の変遷と産業構造の転換、財政問題、中小企業・農業問題について理解することができる。また、富山の産業発展の様相について理解する。		
7・8 戦後の日本経済の動き、産業構造の変化		消費者問題、雇用・労働問題、社会保障、公害問題について理解し、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えることができる。		
9・10・11・12 雇用と労働問題、公害など				
第2章 個人の尊重と法の支配		民主政治と国家の在り方について、個人と国家などの観点から、理解することができる。		
1 民主政治における個人と国家など				
第3章 現代の民主政治と政治参加の意義		日本国憲法の基本的性格の背景を理解することができる。		
1 日本国憲法の基本原理		平和主義と我が国の安全について理解する		
2 平和主義と安全保障		平等権、自由権、社会権、新しい人権の内容と成立の背景を理解することができる。		
3 基本的人権の保障と新しい人権		国会・内閣・裁判所の仕組み、権限・役割などについて理解することができる。		
4・5・6 国民権と議会制民主主義など		世論形成と政治参加の意義、とともに、地方自治を通して政治と生活の関連について認識を深めることができる。		
7・8 地方自治、世論形成と政治参加				
第4章 国際社会の動向と日本の役割		地域経済統合、ロシア・アジアの経済、南北問題について理解することができる。富山の環日本海交流について理解を深める。		
1・2 国家主権と国際法、国際連合の役割		国際経済の仕組み・枠組みと変遷・変化、現代のグローバル化について理解することができる。		
3 今日の国際社会		核兵器と軍縮、人口・食料問題、民族問題、人権問題について理解し、国際社会における日本の果たすべき役割について考えることができる。		
4 核兵器の廃絶と国際平和				
5・6 国境と領土問題		領土に関する国際法の意義、国際連合の役割、冷戦とその終結について理解し、国際平和・協力が国際政治の安定につながることに気づくことができる。		
第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方				
第1章 現代に生きる青年		青年期の意義と課題について理解し、青年期の生き方について自覚を深めることができる。		
1 青年期の意義と自己形成の課題		先哲の思想を手がかりとして、人間の生き方、科学、日本人の思想の基礎を理解することができる。富山の偉人の生き方に触れることで、自己の生き方を考えるきっかけとする。		
2 現代社会における青年の生き方				
3 伝統や文化と私たちの生活				

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学・理数科学科	2	地理歴史	日本史B	3・2
教科書		副教材		
詳説 日本史B 改訂版 (山川出版社)		図説日本史通覧・史料日本史・日本史用語集		
到達目標	1 わが国の歴史の枠組みや流れを理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。 2 歴史事象の原因や背景、因果関係などを多面的に追求し、歴史の見方・考え方を身に付けさせる。 3 わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、自国の文化と伝統の特色について認識を深めさせる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	日本史に対する興味・関心を高め、課題や疑問に対して意欲的に追求しようとする。	日本史を世界史的視野に立って総合的に考察し、自国の文化と伝統の特色について認識を深め、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している	歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な見方・考え方を身に付ける。	歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けるとともに、それぞれの時代背景を理解し、その知識を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国際文化		<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島における文化の形成を、自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化と関連付けて理解できる。 ・古代国家の展開と古墳・白鳳の文化の特色に関する遺物、文献、絵画などの資料を活用し、それぞれの時代・文化の特徴をまとめることができる。 ・律令制度と大陸文化の受容を、東アジアの動向と関連させて理解できる。 ・律令体制の修正・強化がどのように行われたのか理解できる。 		
第2部 中世 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成長		<ul style="list-style-type: none"> ・摂関政治や院政、荘園の発達や武士の台頭を通して、律令体制の崩壊過程について理解できる。 ・荘園のしくみや変質について説明できる。 ・武家政治の特徴や変遷について、幕府と朝廷の関係を軸に理解できる。 ・元寇が幕府政治や御家人たちに与えた影響について説明できる。 ・南北朝期から室町幕府の政権確立までの流れを理解できる。 ・中世末期の動乱の背景に、経済社会の発展や今日の生活文化の原型が見られることについて理解できる。 		
第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺		<ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代から、統一政権が成立し、さらに諸制度が整備され充実する過程について説明することができる。 ・産業経済の発達やそれに伴う都市の成長について理解できる。 ・政治、経済面から幕政改革と文化の特徴をとらえる事ができる。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	2	地理歴史	地理B	3・2
教科書		副教材		
新編詳解地理B改訂版(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)		新編地理資料2018(とうほう)、ニューコンパスノート地理2018(とうほう)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での学習をふまえ、世界の地理的事象を主な対象として現代世界の地理的な認識を深める。 ・日本や世界に見られる諸事象を地理的事象ととらえ、地理的な見方・考え方を培う。 ・地理的認識を深め、地理的な見方・考え方を培う学習を通して、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択し、現代世界の地理的事象を図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認プリント・テストで①「関心・意欲・態度」を、授業中の諸資料の活用で③「技能」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第Ⅰ編 地図と地理的技能 1章 地図情報と地図 1節 世界観の変化と地図 2節 地球儀と世界地図 3節 地理情報の地図化 2章 地図と地域調査 第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 1節 地形 2節 気候 3節 自然と生活		<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな時代や現代のさまざまな地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、現代世界の地図に関する課題意識を高め、それを意欲的に追求し、捉えようとする。 ・収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、現代世界の地図について読み取ったり図表にまとめたりできる。 ・GPSやGISなど現代の地図の仕組みと有用性を理解し、その知識を身につける。 ・様々な地形の形成の理由がわかるか。またそれらの地形と人間生活との関係を理解できる。 ・地形と人間生活との関連を多方面から考察できる。 ・地形図の読図の技術を身につける。 ・気候要素と気候因子の意味、それらの因果関係を理解できる。 ・図やグラフを利用し、その読み取り方が理解できる。 ・気候区分図や雨温図を作成させる。 ・気候と人間生活の関連を多方面から考察できる。 		
1章 自然環境 4節 環境問題 2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 資源・エネルギー		<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し捉えようとする。 ・地形環境と気候環境と関連付けながら、それぞれの農産物の栽培条件を理解できる。 ・どのような自然・社会条件を重視して、農業地域が形成されたのかが理解できる。アメリカ合衆国・オーストラリア・インドなど国家規模の地域の農業も理解できる。 ・資源の分布には偏りがあり、またどのような問題(資源・エネルギー・環境問題)を抱えているかを理解できる。 		
2章 資源と産業 3節 工業 4節 流通と消費		<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の工業や工業地域(ヨーロッパや東南アジアなど大陸規模でとらえる)について、その特徴や種類を系統的に理解できる。 ・貿易に関する用語や経済圏の組織、世界の貿易の特徴や動向などについて、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身につけている。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科・理数科学科	3	地理歴史	日本史B	4・3
教科書		副教材		
詳説日本史B(山川出版社)		図説日本史通覧・史料日本史・日本史用語集		
到達目標	1 わが国の歴史の枠組みや流れを理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。 2 歴史事象の原因や背景、因果関係などを多面的に追求し、歴史の見方・考え方を身に付けさせる。 3 わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、自国の文化と伝統の特色について認識を深めさせる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	日本史に対する興味・関心を高め、課題や疑問に対して意欲的に追求しようとする。	日本史を世界史的視野に立って総合的に考察し、自国の文化と伝統の特色について認識を深め、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している	歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な見方・考え方を身に付ける。	歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けるとともに、それぞれの時代背景を理解し、その知識を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
第IV部 近代・現代 第9章 近代国家の成立		<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。 ・政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて考察する。 ・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 		
第10章 二つの世界大戦とアジア 第11章 占領下の日本		<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。 ・ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。 ・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。 ・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を考察する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。 		
第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本		<ul style="list-style-type: none"> ・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。 ・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ・ドル＝ショックや、石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を考察する。 ・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科・人文社会科学科	3	地理歴史	地理B	4・3
教科書		副教材		
新詳地理B(帝国書院)新詳高等地図(帝国書院)		新編地理資料, データブックオブザワールド, ウィニングコンパス		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での学習をふまえ, 世界の地理的事象を主な対象として現代世界の地理的な認識を深める。 ・日本や世界に見られる諸事象を地理的事象ととらえ, 地理的な見方・考え方を培う。 ・地理的認識を深め, 地理的な見方・考え方を培う学習を通して, 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 の技能	④知識・理解
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め, それを意欲的に追究するとともに, 国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし, それを系統地理的, 地誌的に考察するとともに, 国際社会の变化的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	地図や統計, 画像など地域に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択, 活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し, その知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」, ③「資料活用 の技能」, ④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し, 授業中の諸資料の活用で③「技能」を評価する。1の評価に2を加味し, 総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
2章 資源と産業 7節 第3次産業 8節 世界を結ぶ交通・通信 9節 現代世界の貿易の現状と課題 3章 人口, 村落・都市 1節 世界の人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 4章 生活文化, 民族・宗教 1節 生活文化 2節 民族と宗教 3節 現代世界と国家 4節 民族・領土問題		<ul style="list-style-type: none"> ・第3次産業の発展を脱工業化, 経済のサービス化および情報化の進展という側面から理解する。 ・交通機関の発展や役割, 貿易に関する用語や経済圏の組織, 世界の貿易の特徴や動向などについて, 系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し, その知識を身に付けている。 ・発展途上国の人口問題を抑制し, 食料を増産するためには, 地球規模での取り組みや国際的な協力が必要であることを理解する。 ・集落がどのようなところに立地し, 発展してきたのか, その立地条件について理解する。 ・家屋の配置や密度の違いを生じさせている村落の機能について考察できる。 ・都市はその規模の違いによって, どのような働きをしているのか考察できる。 ・世界の都市・居住問題を理解する。 ・発展途上国と先進国における人口問題の要因とその対策について理解する。 ・自然環境や社会環境の違いによって生活と密着した衣食住の違いが生じることを理解する。民族問題を世界的視野から地域性を踏まえて追求し, それらの解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることについて理解する。 		
第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か 2節 地域区分でのさまざまなスケール 2章 現代世界の諸地域 1節 地域区分とは何か 2節 東アジア 3節 東南アジア 4節 南アジア 5節 西・中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 7節 ヨーロッパ 8節 ロシア 9節 アングロアメリカ 10節 ラテンアメリカ 11節 オセアニア 3章 現代世界と日本		<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分によって, 地域の特色や他地域とのつながりなどが理解しやすくなることを理解する。 ・地域区分のスケールをかえることで, 他地域との違いや地域内の共通性が明確になることを理解する。 ・国家規模の地域を地誌的にとらえる視点や方法を理解する。 ・東アジアの地形と気候について, 沿海部と内陸部など地域による特色の違いを考察する。 ・東南アジアや南アジアの地理的な位置や自然環境を整理し, それが民族・文化の形成や農業の発展に与えた影響を理解する。 ・イスラームの成立と広がりを理解する。 ・アフリカの国境設定の過程と民族紛争の関連を理解する。 ・EUの成立と現在の問題点を理解する。 ・ロシアの豊富な鉱産資源と鉱工業の特色を理解する ・先端技術産業におけるアメリカ合衆国の優位性と, その立地について理解する。 ・ラテンアメリカの国々が外資の導入によって工業化を進めた経緯を理解する。 ・オセアニア地域の多文化主義の歩みとア文化教育の意義を理解する。 ・課題を探究する活動を通して, その解決方法や将来の国土の在り方を展望する。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	1	数学	数学 I	3
教科書		副教材		
改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)		アドバンス 改訂版 数学 I + A (啓林館)、はぎ取り式練習ドリル 数学 I 標準編(数研出版)		
到達目標	1 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 2 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析について理解させ, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して, 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して, 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えるときともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析における事象を数学的に考察し, 表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け, 的確に問題を解決する。	数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に, ②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて, 定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を, 授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し, その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
第1章 数と式 第1節 式の計算 1 整式とその加減 2 整式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式		<ul style="list-style-type: none"> ・整式の整理ができる。 ・整式に応じて適切な方法で展開することができる。 ・整式に適した方法で因数分解ができる。 ・自然数, 整数, 有理数, 無理数を実数として体系的に理解できる。 ・根号を含む式の計算に習熟し, 分母の有理化ができる。 ・不等式について理解し, 大小関係を不等式で表すことができる。 ・1次不等式とその連立不等式を解くことの意味を理解し, 解を求めることができる。 ・絶対値を含んだ1次方程式や1次不等式を解くことができる。 		
第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> ・集合の表現方法や基本的性質を理解できる。 ・論証の基礎となる用語を理解しそれを使いこなすことができる。 ・逆・裏・対偶の意味が理解できる。 ・対偶を利用した証明, 背理法による証明をすることができる。 ・発展的な問題を解くことができる。 		
第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> ・関数を定義し, 定義域, 値域, グラフを理解できる。 ・2次関数のグラフを書くことができる。 ・2次関数の最大と最小を求めることができる。 ・条件に合わせて2次関数の方程式を求めることができる。 ・2次方程式の解の公式を導き, 解を求めることができる。 ・方程式から2次関数のグラフとx軸の位置関係を理解できる。 ・2次関数のグラフを利用して2次不等式を解くことができる。 ・発展的な問題を解くことができる。 		
第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> ・鋭角の正接・正弦・余弦を定義を理解し, 求めることができる。 ・正接・正弦・余弦との関係を理解できる。 ・鈍角の定義を理解し, 求めることができる。 ・正弦定理が理解できる。 ・余弦定理が理解できる。 ・与えられた三角形の要素から残りの要素を求めることができる。 ・三角形の面積の求め方の理解を深め, それを活用して様々な図形の面積を求めることができる。 ・空間図形について, 辺の長さや体積などの量を三角比を用いて表すことができる。 ・発展的な問題を解くことができる。 		
第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> ・データを度数分布表に整理することができる。また, 度数分布表をヒストグラムで表すことができる。 ・平均値や中央値, 最頻値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。 ・四分位範囲の定義やその意味を理解し, それを求め, データの散らばりを比較することができる。 ・分散, 標準偏差の定義とその意味を理解し, 分散, 標準偏差を求めることができる。 ・散布図を作成し, 2つの変量の間の相関を考察することができる。 ・平均値, 分散, 標準偏差, 相関係数の定義に従った式を表計算ソフトに入力し, それらを計算することができる。 ・発展的な問題を解くことができる。 		

教育計画 (シラバス)				
学科名	学年	教科	科目	単位数
理数学科科・人文社会科学科	1	理数	理数数学 I	4
教科書		副教材		
改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)	アドバンス 改訂版 数学 I + A (啓林館)、はぎ取り式練習ドリル数学 I 標準編(数研出版)			
改訂版 高等学校 数学 A (数研出版)	はぎ取り式練習ドリル数学 A 標準編(数研出版)			
改訂版 高等学校 数学 II (数研出版)	アドバンス 改訂版 数学 II + B (啓林館)、はぎ取り式練習ドリル数学 II 標準編(数研出版)			
到達目標	1 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、式と証明、複素数と方程式及び指数関数・対数関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 2 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、式と証明、複素数と方程式及び指数関数・対数関数について理解させ、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して、数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、式と証明、複素数と方程式及び指数関数・対数関数における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して、数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、式と証明、複素数と方程式及び指数関数・対数関数における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的に考察し、論理的に考えようとするとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、式と証明、複素数と方程式及び指数関数・対数関数において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付けて、的確に問題を解決する。	数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、式と証明、複素数と方程式及び指数関数・対数関数における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に、②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能含めて、定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を、授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し、その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
数学 I 第1章 数と式 第1節 式の計算 1 整式とその加減 2 整式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式		<ul style="list-style-type: none"> ・整式の整理ができる。 ・整式に応じて適切な方法で展開することができる。 ・整式に適した方法で因数分解ができる。 ・自然数、整数、有理数、無理数を実数として体系的に理解できる。 ・根号を含む式の計算に習熟し、分母の有理化ができる。 ・不等式について理解し、大小関係を不等式で表すことができる。 ・1次不等式とその連立不等式を解くことの意味を理解し、解を求めることができる。 ・絶対値を含んだ1次方程式や1次不等式を解くことができる。 		
数学 I 第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> ・集合の表現方法や基本的性質を理解できる。 ・論証の基礎となる用語を理解しそれを使いこなすことができる。 ・逆・裏・対偶の意味が理解できる。 ・対偶を利用した証明、背理法による証明をすることができる。 ・発展的な問題を解くことができる。 		
数学 A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺と比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 第2節 空間図形 8 直線と平面 9 区間図形と多面体 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> ・定理を適切に利用して、線分の比や長さを求めることができる。 ・三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 ・チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。 ・円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めたり、図形の性質を証明することができる。 ・円の接線と弧の作る角の性質や方べきの定理を利用して、辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・2つの円の位置関係を、動的な面から観察することができる。 ・内分点・外分点やいろいろな長さの線分が作図できる。 ・空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察できる。 ・正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 ・発展的な問題を解くことができる。 		
数学 I 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> ・鋭角の正接・正弦・余弦を定義を理解し、求めることができる。 ・正接・正弦・余弦との関係を理解できる。 ・鈍角の定義を理解し、求めることができる。 ・正弦定理が理解できる。 ・余弦定理が理解できる。 ・与えられた三角形の要素から残りの要素を求めることができる。 ・三角形の面積の求め方の理解を深め、それを活用して様々な図形の面積を求めることができる。 ・空間図形について、辺の長さや体積などの量を三角比を用いて表すことができる。 ・発展的な問題を解くことができる。 		
数学 I 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> ・関数を定義し、定義域、値域、グラフを理解できる。 ・2次関数のグラフを書くことができる。 ・2次関数の最大と最小を求めることができる。 ・条件に合わせて2次関数の方程式を求めることができる。 ・2次方程式の解の公式を導き、解を求めることができる。 ・方程式から2次関数のグラフとx軸の位置関係を理解できる。 ・2次関数のグラフを利用して2次不等式を解くことができる。 ・発展的な問題を解くことができる。 		

<p>数学Ⅰ 第5章 データの分析</p> <p>1 データの整理</p> <p>2 データの代表値</p> <p>3 データの散らばりと四分位数</p> <p>4 分散と標準偏差</p> <p>5 データの相関</p> <p>6 表計算ソフトによるデータの分析</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・データを度数分布表に整理することができる。また、度数分布表をヒストグラムで表すことができる。 ・平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ・四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。 ・分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、分散、標準偏差を求めることができる。 ・散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。 ・平均値、分散、標準偏差、相関係数の定義に従った式を表計算ソフトに入力し、それらを計算することができる。 ・発展的な問題を解くことができる。
<p>数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数</p> <p>第1節 指数関数</p> <p>1 指数の拡張</p> <p>2 指数関数</p> <p>第2節 対数関数</p> <p>3 対数とその性質</p> <p>4 対数関数</p> <p>5 常用対数</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指数の拡張について理解し、指数法則を使って計算ができる。 ・指数関数のグラフをかくことができる。また、指数方程式や不等式を解くことができる。 ・対数の定義や法則を理解し、対数の値や計算ができる。 ・対数関数のグラフをかくことができる。また、対数方程式や不等式を解くことができる。 ・常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。 ・発展的な問題を解くことができる。
<p>数学Ⅱ 第4章 三角関数</p> <p>第1節 三角関数</p> <p>1 角の拡張</p> <p>2 三角関数</p> <p>3 三角関数のグラフ</p> <p>4 三角関数の性質</p> <p>5 三角関数の応用</p> <p>第2節 加法定理</p> <p>6 三角関数の加法定理</p> <p>7 加法定理の応用</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・角の概念を拡張した一般角が理解できる。 ・一般角を用いた三角関数の定義が理解できる。 ・三角関数のグラフの周期性や対称性を理解し、グラフを書くことができる。 ・三角関数の相互関係を利用して問題を解くことができる。 ・簡単な三角方程式・三角不等式を解くことができる。 ・加法定理を用いて三角関数の値を計算することができる。 ・三角関数の合成を用いて、関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・発展的な問題を解くことができる。
<p>数学Ⅱ 第1章 式と証明</p> <p>第1節 式と計算</p> <p>1 3次式の展開と因数分解</p> <p>2 二項定理</p> <p>3 整式の割り算</p> <p>4 分数式とその計算</p> <p>5 恒等式</p> <p>第2節 等式・不等式の証明</p> <p>6 等式の証明</p> <p>7 不等式の証明</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3次式の因数分解ができる。 ・二項定理について習熟し、これを利用することができる。 ・整式の割り算により、商と余りを計算できる。 ・分数式の四則計算ができる。 ・恒等式について習熟し、これを利用することができる。 ・等式の証明法について習熟し、代数的に証明することができる。 ・不等式の証明法について習熟し、代数的に証明することができる。 ・発展的な問題を解くことができる。
<p>数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式</p> <p>1 複素数とその計算</p> <p>2 2次方程式の解</p> <p>3 解と係数の関係</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数の四則計算ができる。 ・2次方程式の解が実数解になるか虚数解になるかを、判別式を用いて判断できる。 ・解と係数の関係を導き、これを利用することができる。 ・発展的な問題を解くことができる。

平成30年度教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	1	理科	地学基礎	2
教科書		副教材		
地学基礎 改訂版(啓林館)		ニューステージ新地学図表(浜島書店), 地学基礎の基本マスター(啓林館)		
到達目標	1. 地球や宇宙の時間的・空間的な広がりの中における自己の位置を確認させ、科学的な自然観を修得させる。 2. 自然現象や物質に対して観察・実験・実習をおこない、自然に対する関心や探究心を高め、探究する能力・態度を育てる。 3. 物事や事象に対する的確で正確な判断力を養うと同時に、地学的な考え方の修得を目指す。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	地学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして事実に基づいて科学的に判断できる。観察、実験の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付ける。	観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
第1部 固体地球とその変動 第1章 地球 1 地球の概観 2 地球の内部構造 第2章 活動する地球 1 プレートと地球の活動 2 地震 3 火山活動と火成岩の形成		・地球の形や重力・地磁気・熱といった特徴、そこから推定される地球の内部構造を学ぶとともに、その調べ方についても理解できる。 ・地震や火山のような、活動する地球の特徴を学習し、地球上に分布するプレートと関連付けて考えることができる。 ・地球の表層をつくる岩石について、成因や構成する鉱物の特徴などを学習し、理解できる。 ・さまざまな地殻変動が地形に与える影響について実習を通じて学習し、大規模な造山運動と関連させて理解できる。		
第2部 移り変わる地球 第1章 地球史の読み方 1 堆積岩とその形成 2 地層と地質構造 3 地球の歴史の組み立て 第2章 地球と生命の進化 1 先カンブリア時代 2 顕生代		・堆積岩やそのできかた、地層の特徴やその調べ方について、野外調査の方法や地質図の実習をまじえながら、地球の歴史と関連させて学習し理解できる。 ・46億年の地球の歴史について、生物の進化と地球の環境変化とを関連付けながら学習する。また、化石標本の観察などを行い、古生物の特徴や地層の堆積環境などを考えることができる。		
第3部 大気と海洋 第1章 大気の特徴 1 大気圏 2 水と気象 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 1 地球のエネルギー収支 2 大気の大循環 3 海水の循環 第3章 日本で見られる季節の気象 1 冬から春の気象 2 夏から秋の気象		・大気圏の特徴と大気中の水分のはたらきについて、水の状態変化と熱の関係を考えながら学習し理解できる。 ・太陽からやってくるエネルギーが、大気に与える影響やそれによる大気の運動について気象現象と関連させて理解できる。 ・日本の天気について、いろいろな方法で入手できる雲の画像や天気図を用いて理解を深めることができる。 ・地球の気候に大きな影響を及ぼす海水の動きやエルニーニョ現象、気象関係の環境問題について考えることができる。		
第4部 宇宙の構成 第1章 太陽系と太陽 1 太陽系の天体 2 太陽系の誕生 3 太陽 第2章 恒星としての太陽の進化 1 太陽と恒星 2 太陽の誕生と進化 第3章 銀河系と宇宙 1 銀河系と周りの銀河 2 宇宙の姿		・太陽系がどのような天体で構成されているかを確認し、各惑星の特徴を他と比較しながら整理することで、理解を深めることができる。 ・太陽を普通の恒星と考え、その明るさや色を他の恒星と比較しながら、その誕生や進化について理解できる。 ・銀河系の形や構造を理解し、宇宙の構造や進化について考えることができる。		
第5部 自然との共生 1 地球環境と人類 2 日本の自然災害と防災 3 人間生活と地球環境の変化		・自然からの恩恵を、主に資源を題材にして考えることができる。 ・自然災害についてその要点を整理し、減災や防災について、身近な問題をとらえて考えることができる。 ・地学を学習してきた意義を理解できる。		

平成30年度教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科・人文社会科学科	1	理数	理数地学	2
教科書		副教材		
地学基礎 改訂版(啓林館)		ニューステージ新地学図表(浜島書店), 地学基礎の基本マスター(啓林館)		
到達目標	1. 地球や宇宙の時間的・空間的な広がりの中における自己の位置を確認させ、科学的な自然観を修得させる。 2. 自然現象や物質に対して観察・実験・実習をおこない、自然に対する関心や探究心を高め、探究する能力・態度を育てる。 3. 物事や事象に対する的確で正確な判断力を養うと同時に、地学的な考え方の修得を目指す。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	地学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして事実に基づいて科学的に判断できる。観察、実験の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付ける。	観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能・表現」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
1. 地球の活動 (1) 活動する地球 (2) 地球の活動と歴史		<ul style="list-style-type: none"> 地震や火山のような活動する地球の特徴を、地球上に分布するプレートと関連付けて考えることができる。 地球の内部構造を学習し、走時曲線と地殻の構造を関連づけて考えることができる。 様々な地殻変動が地形に与える影響について実習を通じて学び、造山運動と関連させて理解できる。 地球の表層をつくる岩石について、火成岩を中心に標本を用いながら、成因や構成する鉱物の特徴などを学習し、理解できる。 堆積岩やそのできかた、地層の特徴やその調べ方について、野外調査の方法や地質図の実習をまじえながら、地球の歴史と関連させて学習し理解できる。 		
2. 地球の歴史 (1) 移り変わる地球 (2) 地球の歴史		<ul style="list-style-type: none"> 46億年の地球の歴史について、生物の進化と地球の環境変化とを関連付けながら学習する。また、化石標本の観察などを行い、古生物の特徴や地層の堆積環境などを考えることができる。 地表や地層の観察を通して、過去の地球環境や地殻変動について考察できる。 日本列島の成り立ちを島弧の特徴を捉えながら理解できる。 		
3. 大気と海洋の構造と運動 (1) 大気と海洋 (2) 大気の構造と運動 (3) 海洋と海水の運動 (4) 地球の環境		<ul style="list-style-type: none"> 大気圏の特徴と大気中の水分のはたらきについて、状態変化と熱の関係を考えながら理解できる。 海水の組成と海洋の構造について学習し、理解できる。 太陽からやってくるエネルギーが、大気に与える影響やそれによる大気の運動について気象現象と関連させて理解できる。 地球の気候に大きな影響を及ぼす海水の動きやエルニーニョ現象、気象関係の環境問題について考えることができる。 日本の天気について、雲の画像や天気図を用いて理解を深めることができる。 自然からの恩恵を、主に資源を題材にして考えることができる。 自然災害についてその要点を整理し、減災や防災について、身近な問題をとらえて考えることができる。 		
4. 宇宙の構造と進化 (1) 宇宙における地球 ア 宇宙の構成 イ 惑星としての地球 ウ 地球の概観 (2) 宇宙の構造 ア 太陽系 イ 恒星と銀河系 ウ 銀河と宇宙		<ul style="list-style-type: none"> 太陽を普通の恒星と考え、明るさや色を他の恒星と比較しながら、その誕生や進化について理解できる。 地球の惑星としての特徴について学習し、理解できる。 地球の形や重力・地磁気・熱といった特徴、そこから推定される地球の内部構造を学ぶとともに、その調べ方についても理解できる。 太陽系がどのような天体で構成されているかを確認し、各惑星の特徴を他と比較しながら整理することで、理解を深めることができる。 太陽の活動と内部構造について学習し、その理解を深めることができる。 ケプラーの法則を扱い、太陽を1つの焦点とした惑星運動について理解できる。 現代の宇宙像の概要を理解でき、銀河までの距離を計算で求めることができる。 銀河系の形や構造を理解し、宇宙の構造や進化について考えることができる。 様々な銀河の存在やハッブルの法則を用いた銀河の後退運動について理解できる。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	2	理科	物理基礎	2
教科書		副教材		
改訂版物理基礎 (数研出版)		改訂ニューグローバル物理基礎+物理 (東京書籍)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な、見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考、判断、表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関 第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴		<ul style="list-style-type: none"> ・速度がベクトル量であることを知り、x-t図、平均の速度、瞬間の速度との関係を理解する。 ・加速度の定義を学び、v-t図との関係を理解する。 ・落体の運動の特徴を学び、x-t図、v-t図と関連づけて理解する。 ・物体には様々な力がはたらくことを理解し、フックの法則を見いだす。 ・力の合成と分解を理解し、作用・反作用の法則を確認する。 ・慣性の法則、および物体にはたらく力と質量、加速度の関係を理解する。 ・摩擦力の性質を理解する。 ・流体中にある物体にはたらく力について理解し、圧力と浮力を定量的に扱える。 ・仕事の定義を知り、正・負の仕事を具体的に理解する。 ・運動エネルギーの変化が受けた仕事に等しいことを理解する。 ・重力および弾性力による位置エネルギーを理解する。 ・エネルギーの原理から、力学的エネルギー保存則が成立していることを理解する。 ・原子や分子の熱運動と温度の関係を知り、熱容量・比熱の定義を理解する。 ・物質の三態と状態変化について熱運動の考え方から理解する。 ・仕事と熱の変換、内部エネルギー、熱力学第1法則を学び、熱現象を定量的に扱える。 ・熱機関と熱効率、熱現象の不可逆性について学び、エネルギー利用について理解を深める。 ・単振動の伝搬による波が正弦波であることを理解する。 ・波の重ねあわせの原理を理解し、定常波の性質を説明することができる。 ・音は縦波であることを知り、音の屈折やうなりについて理解する。 ・弦の振動や気柱の共鳴では定常波ができていることを理解する。 		
第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 交流と電磁波 1. 交流 2. 電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 第2章 物理学が拓く世界 1. 摩擦をコントロールする 2. エネルギーを有効利用する 3. 見えないものを見る		<ul style="list-style-type: none"> ・帯電のしくみを知り、導体と不導体の違いを理解する。 ・オームの法則と合成抵抗の求め方を理解する。 ・ジュールの法則と電力の求め方を理解する。 ・交流と直流の違いと特徴を理解する。 ・電磁波の発生のしくみを知り、電磁波の種類を理解する。 ・エネルギーには様々な形態があり、他の形態に変換しても総量は変化しないことを学ぶ。 ・私たちの生活を支える電気エネルギーについて理解を深める。 ・物理基礎で学んだ事柄が、日常生活や科学技術と深い結びつきがあることを学ぶ。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(文系)	2学年	理科	化学基礎	2
教科書		副教材		
改訂版 化学基礎(数研出版)		セミナー化学基礎(第一学習社)、化学総合資料(実教出版)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 1 化学の学習を通し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度 ・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	②思考・判断・表現 ・実験に対し、問題意識を持ちながら取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて、現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	③観察・実験の技能 ・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算や考え方を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。	④知識・理解 ・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能・表現」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
・第1編 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合		・あらゆる物質は原子、分子、イオン、等の微細な粒子からできていることを理解し、成分としての元素の概念が理解できる。 ・物質の分類として混合物、純物質、単体、化合物について理解できる。 ・物質は原子・分子・イオンの基本粒子からできていることを理解できる。 ・物質の三態について理解できる。 ・原子の基本的な内部構造を学び、原子の性質と結びつきについて理解できる。 ・原子が陽子、中性子、電子などで構成されていることを理解できる。 ・イオン結合・共有結合・金属結合の様式と表し方について理解できる。 ・電気陰性を理解し、分子の形と極性について考察できる。 ・イオンがどのように結合しているか。さらに、イオン結合からなる物質の特徴的な性質を理解できる。 ・共有結合からなる物質について学び、またその種類や表しかたを理解できる。 ・電気陰性が異なる原子の電子の偏りが極性の原因であることを理解できる。 ・多数の原子が共有結合で結合していることを理解できる。 ・金属結合のしくみについて理解し、特性や利用法について理解できる。		
・第2編 第1章 物質量と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応		・相対質量で原子や分子などの質量を表すことを理解できる。 ・物質量の考え方(アボガドロ数、物質の質量や体積等と物質量の関係)を理解できる。 ・物質量、濃度に関わる計算が確実にできる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度について確実に求めることができる。 ・物質の変化を化学反応式で表す事を学び、化学変化の量的関係について理解する。 ・物質量に関わる計算力を身につける。 ・酸や塩基の定義および反応には水素イオンが寄与していることを理解する。 ・酸性酸化物および塩基性酸化物の定義および酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。 ・水溶液の液性の程度をpHにより表すことができることを理解する。 ・酸と塩基が中和するときの量的関係が理解でき、確実に計算できる。 ・滴定実験により未知の濃度の酸や塩基を求めることができる。 ・酸化還元反応を電子の授受による考え方を理解する。 ・酸化数を用いて酸化還元を統一的に考え、理解する。 ・酸化剤・還元剤のはたらきと化学変化を化学反応式で表すことができる。 ・金属のイオン化傾向、電池や電気分解での反応および量的関係も理解し、確実に計算ができる。		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	2	理科	生物基礎	2
教科書		副教材		
生物基礎 改訂版 (数研出版)		リードα 生物基礎・生物(数研出版) ・ スクエア最新図説生物neo(第一学習社)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価基準)		
第1編 生物と遺伝子 1章 生物の特徴 2章 遺伝子とそのはたらき		<ul style="list-style-type: none"> 生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けることができる。 生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解することができる。 遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解することができる。 DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解することができる。 DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解することができる。 		
第2編 生物の体内環境の維持 3章 生物の体内環境		<ul style="list-style-type: none"> 体内環境が保たれていることを理解することができる。 体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解することができる。 免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解することができる。 		
第3編 生物の多様性と生態系 4章 植生の多様性と分布 5章 生態系とその保全		<ul style="list-style-type: none"> 陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解することができる。 気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解することができる。 生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解することができる。 生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識することができる。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(文系)・人文社会科学科	2学年	理科	化学基礎	2
教科書		副教材		
化学基礎 改訂版 (数研出版)		セミナー化学基礎(第一学習社)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 1 化学の学習を通し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度 ・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	②思考・判断・表現 ・実験に対し、問題意識を持ちながら取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて、現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	③観察・実験の技能 ・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算や考え方を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。	④知識・理解 ・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能・表現」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
・第1編 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合		・あらゆる物質は原子、分子、イオン、等の微細な粒子からできていることを理解し、成分としての元素の概念が理解できる。 ・物質の分類として混合物、純物質、単体、化合物について理解できる。 ・物質は原子・分子・イオンの基本粒子からできていることを理解できる。 ・物質の三態について理解できる。 ・原子の基本的な内部構造を学び、原子の性質と結びつきについて理解できる。 ・原子が陽子、中性子、電子などで構成されていることを理解できる。 ・イオン結合・共有結合・金属結合の様式と表し方について理解できる。 ・電気陰性を理解し、分子の形と極性について考察できる。 ・イオンがどのように結合しているか。さらに、イオン結合からなる物質の特徴的な性質を理解できる。 ・共有結合からなる物質について学び、またその種類や表しかたを理解できる。 ・電気陰性が異なる原子の電子の偏りが極性の原因であることを理解できる。 ・多数の原子が共有結合で結合していることを理解できる。 ・金属結合のしくみについて理解し、特性や利用法について理解できる。		
・第2編 第1章 物質量と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応		・相対質量で原子や分子などの質量を表すことを理解できる。 ・物質量の考え方(アボガドロ数、物質の質量や体積等と物質量の関係)を理解できる。 ・物質量、濃度に関わる計算が確実にできる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度について確実に求めることができる。 ・物質の変化を化学反応式で表す事を学び、化学変化の量的関係について理解する。 ・物質量に関わる計算力を身につける。 ・酸や塩基の定義および反応には水素イオンが寄与していることを理解する。 ・酸性酸化物および塩基性酸化物の定義および酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。 ・水溶液の液性の程度をpHにより表すことができることを理解する。 ・酸と塩基が中和するときの量的関係が理解でき、確実に計算できる。 ・滴定実験により未知の濃度の酸や塩基を求めることができる。 ・酸化還元反応を電子の授受による考え方を理解する。 ・酸化数を用いて酸化還元を統一的に考え、理解する。 ・酸化剤・還元剤のはたらきと化学変化を化学反応式で表すことができる。 ・金属のイオン化傾向、電池や電気分解での反応および量的関係も理解し、確実に計算ができる。		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(文系)・人文社会科学科	2	理科	生物基礎	2
教科書		副教材		
生物基礎 改訂版 (数研出版)		リードLight生物基礎(数研出版)・スクエア最新図説生物neo(第一学習社)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価基準)		
第1編 生物と遺伝子 1章 生物の特徴 2章 遺伝子とそのはたらき		<ul style="list-style-type: none"> 生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けることができる。 生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解することができる。 遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解することができる。 DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解することができる。 DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解することができる。 		
第2編 生物の体内環境の維持 3章 生物の体内環境		<ul style="list-style-type: none"> 体内環境が保たれていることを理解することができる。 体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解することができる。 免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解することができる。 		
第3編 生物の多様性と生態系 4章 植生の多様性と分布 5章 生態系とその保全		<ul style="list-style-type: none"> 陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解することができる。 気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解することができる。 生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解することができる。 生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識することができる。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2	理数	理数物理	4
教科書		副教材		
改訂版物理基礎、改訂版総合物理1、改訂版総合物理2 (数研出版)		改訂ニューグローバル物理基礎+物理 (東京書籍)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするともに、科学的な、見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考、判断、表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
物理基礎 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関 第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 交流と電磁波 1. 交流 2. 電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 第2章 物理学が拓く世界 1. 摩擦をコントロールする 2. エネルギーを有効利用する 3. 見えないものを見る		<ul style="list-style-type: none"> 速度がベクトル量であることを知り、$x-t$図、平均の速度、瞬間の速度との関係を理解する。 加速度の定義を学び、$v-t$図との関係を理解する。 落体の運動の特徴を学び、$x-t$図、$v-t$図と関連づけて理解する。 物体には様々な力がはたらくことを理解し、フックの法則を見いだす。 力の合成と分解を理解し、作用・反作用の法則を確認する。 慣性の法則、および物体にはたらく力と質量、加速度の関係を理解する。 摩擦力の性質を理解する。 流体中にある物体にはたらく力について理解し、圧力と浮力を定量的に扱える。 仕事の定義を知り、正・負の仕事を具体的に理解する。 運動エネルギーの変化が受けた仕事に等しいことを理解する。 重力および弾性力による位置エネルギーを理解する。 エネルギーの原理から、力学的エネルギー保存則が成立していることを理解する。 原子や分子の熱運動と温度の関係を知り、熱容量・比熱の定義を理解する。 物質の三態と状態変化について熱運動の考え方から理解する。 仕事と熱の変換、内部エネルギー、熱力学第1法則を学び、熱現象を定量的に扱える。 熱機関と熱効率、熱現象の不可逆性について学び、エネルギー利用について理解を深める。 単振動の伝搬による波が正弦波であることを理解する。 波の重ねあわせの原理を理解し、定常波の性質を説明することができる。 音は縦波であることを知り、音の屈折やうなりについて理解する。 弦の振動や気柱の共鳴では定常波ができていることを理解する。 帯電のしくみを知り、導体と不導体の違いを理解する。 オームの法則と合成抵抗の求め方を理解する。 ジュールの法則と電力の求め方を理解する。 交流と直流の違いと特徴を理解する。 電磁波の発生のしくみを知り、電磁波の種類を理解する。 エネルギーには様々な形態があり、他の形態に変換しても総量は変化しないことを学ぶ。 私たちの生活を支える電気エネルギーについて理解を深める。 物理基礎で学んだ事柄が、日常生活や科学技術と深い結びつきがあることを学ぶ。 剛体にはたらく力と力のモーメントのつりあいを理解する。 剛体にはたらく力の合成法を知り、重心の意味を理解する。 運動量と力積および、その間の関係を理解する。 直線および平面運動における運動量保存則を理解する。 反発係数を理解し、運動量保存則と合わせて利用できることを理解する。 等速円運動について成り立つ関係を理解する。 慣性力を使って力のつりあいより、運動の様子を調べることができることを理解する。 単振動を理解し、ばね振り子、単振り子の周期を求めることができることを理解する。 万有引力の法則、万有引力による位置エネルギーを理解する。 ボイルの法則、シャルルの法則を理解する。 気体分子の運動から、熱力学諸量を求められることを理解する。 断熱、定積、定圧、等温変化をボイル・シャルルの法則と熱力学第一法則を用いて理解する。 熱機関と熱効率、熱現象の不可逆性について学び、エネルギー利用について理解を深める。 		
総合物理1 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 6. 剛体にはたらく力のつりあい 第4章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数 第5章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力 3. 単振動 4. 万有引力 第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化 4. 不可逆変化と熱機関				

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2学年	理数	理数化学	4
教科書		副教材		
化学基礎 改訂版、化学 改訂版 (数研出版)		セミナー化学基礎+化学(第一学習社)、化学総合資料(実教出版)		
到達目標	化学的な事象・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 1 物質とその変化について化学的な解釈や説明ができることを通して、知的好奇心を持って課題を見だし、主体的に解決しようとする意欲を高める。 2 化学的な事象・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解させる。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点	① 関心・意欲・態度 ・自然の事象・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	② 思考・判断・表現 ・実験の中で問題を見出し、取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	③ 観察・実験の技能 ・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算方法を身につけたか。 ・自然界の事象について科学的に探究する方法を身につけたか。	④ 知識・理解 ・実験等を通して自然の事象現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
化学基礎 ・第1編 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合		・あらゆる物質は原子、分子、イオン、等の微細な粒子からできていることを理解し、成分としての元素の概念が理解できる。 ・物質の分類として混合物、純物質、単体、化合物について理解できる。 ・物質は原子・分子・イオンの基本粒子からできていることを理解できる。 ・物質の三態について理解できる。 ・原子の基本的な内部構造を学び、原子の性質と結びつきについて理解できる。 ・原子が陽子、中性子、電子などで構成されていることを理解できる。 ・イオン結合・共有結合・金属結合の様式と表し方について理解できる。 ・電気陰性度を理解し、分子の形と極性について考察できる。 ・イオンがどのように結合しているか。さらに、イオン結合からなる物質の特有的な性質を理解できる。 ・共有結合からなる物質について学び、またその種類や表しかたを理解できる。 ・電気陰性度が異なる原子の電子の偏りが極性であることを理解できる。 ・多数の原子が共有結合で結合していることを理解できる。 ・金属結合のしくみについて理解し、特性や利用法について理解できる。		
・第2編 第1章 物質質量と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応		・相対質量で原子や分子などの質量を表すことを理解できる。 ・物質質量の考え方(アボガドロ数、物質の質量や体積等と物質質量の関係)を理解できる。 ・物質質量、濃度に関わる計算が確実にできる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度について確実に求めることができる。 ・物質の変化を化学反応式で表す事や学び、化学変化の量的関係について理解する。 ・物質質量に関わる計算力を身につける。 ・酸や塩基の定義および反応には水素イオンが寄与していることを理解する。 ・酸性酸化物および塩基性酸化物の定義および酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。 ・水溶液の液性の程度をpHにより表すことができることを理解する。 ・酸と塩基が中和するときの量的関係が理解でき、確実に計算できる。 ・滴定実験により未知の濃度の酸や塩基を求めることができる。 ・酸化還元反応を電子の授受による考え方を理解する。 ・酸化数を用いて酸化還元を統一的に考え、理解する。 ・酸化剤・還元剤のはたらきと化学変化を化学反応式で表すことができる。 ・金属のイオン化傾向、電池や電気分解での反応および量的関係も理解し、確実に計算ができる。		
化学 ・第3編 無機物質 第1章 非金属元素 1 元素の分類と周期表 5 酸素・硫黄 2 水素 6 窒素・リン 3 希ガス元素 7 炭素・ケイ素 4 ハロゲン元素 第2章 金属元素(I) 1 アルカリ金属元素 2 2属元素 3 アルミニウム・亜鉛 4 スズ・鉛 第3章 金属元素(II) 1 遷移元素の特色 5 クロム 2 鉄 6 マンガン 3 銅 7 金属イオンの分離 4 銀・金		・無機物質の性質や反応などを、元素の周期表と関連付けて思考、判断できる。 ・無機物質について観察・実験をおこない、規則性を見いだしたり、事象が生じる要因や仕組みを科学的に考察できる。 ・無機物質の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・無機物質を、日常生活および化学工業に関連づけて理解し、知識を身につけている。 ・無機物質の性質や反応などを、元素の周期表と関連付けて思考、判断できる。 ・無機物質について観察・実験をおこない、規則性を見いだしたり、事象が生じる要因や仕組みを科学的に考察できる。 ・無機物質の性質や反応について観察・実験をおこない、その基本操作や記録の仕方を習得している。 ・無機物質の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・無機物質を、日常生活および化学工業に関連づけて理解し、知識を身につけている。 ・金属イオンの反応について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。		
・第1編 第1章 粒子の結合と結晶の構造 1 原子とイオン 4 共有結合の結晶 2 イオン結合とイオン結晶 5 金属結合と金属 3 分子と共有結合 第2章 物質の三態と状態変化 1 粒子の熱運動 2 分子間力と三態の変化 3 状態変化とエネルギー 4 物質の種類と物理的性質 第3章 気体 1 気体の体積 2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力 4 実在気体 第4章 溶液 1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液		・化学結合と結晶の性質について、復習する。 ・イオン結晶の構造について学習する。 ・共有結合の結晶構造について学習する。 ・分子間の結合、および分子結晶の性質と構造について学習する。 ・金属結晶の構造について学習する。 ・物質の三態変化を復習し、その変化に伴う熱の出入りも学習する。 ・飽和蒸気圧を学習し、飽和蒸気圧と沸騰の関係や学ぶ。また、化学結合と物質の融点・沸点との関係を学習する。 ・ボイル・シャルルの法則をそれぞれ理解し、知識を身につけている。 ・気体の状態方程式を理解し、その応用を学習する。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を理解する。 ・理想気体と実在気体との違いを理解する。 ・水やという現象を理解し、水に溶解する物質と溶解しない物質に分類できる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度、質量モル濃度といった濃度の表し方を理解している。 ・浸透圧や浸透圧測定の方法を理解している。 ・凝析を効果的に行わせる方法を理解している。		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2	理数	理数生物	4
教科書		副教材		
生物基礎 改訂版 (数研出版) ・ 生物 改訂版 (数研出版)		リードα 生物基礎・生物 (数研出版) ・ スクエア最新図説生物neo (第一学習社)		
到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価基準)		
生物基礎 第1編 生物と遺伝子 1章 生物の特徴 2章 遺伝子とそのはたらき 第2編 生物の体内環境の維持 3章 生物の体内環境 第3編 生物の多様性と生態系 4章 植生の多様性と分布 5章 生態系とその保全		<ul style="list-style-type: none"> 生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けることができる。 生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解することができる。 生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解することができる。 遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解することができる。 DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解することができる。 DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解することができる。 体内環境が保たれていることを理解することができる。 体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解することができる。 免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解することができる。 陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解することができる。 気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解することができる。 生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解することができる。 生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識することができる。 		
生物 第1編 生命現象と物質 1章 細胞と分子 2章 代謝 3章 遺伝情報の発現 第2編 生殖と発生 4章 生殖と発生		<ul style="list-style-type: none"> 細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解することができる。 様々なタンパク質が様々な生命現象を支えていることを理解することができる。 呼吸によって有機物からエネルギーが取り出される仕組みを理解することができる。 光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられるしくみを理解することができる。 DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解することができる。 遺伝子の発現が調節されていること及びその仕組みの概要を理解することができる。 減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的組合せが生じることを理解することができる。 遺伝子の連鎖と組換えについて理解することができる。 配偶子形成と受精の過程について理解することができる。 卵割から器官分化の始まりまでの過程について理解することができる。 細胞の分化と形態形成の仕組みを理解することができる。 配偶子形成と受精及び胚発生の過程について理解することができる。 被子植物の器官の分化過程について理解することができる。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2	理数	探究基礎(Ⅱ)	1
教科書		副教材		
到達目標	<p>数学・科学に関する課題を設定し、観察、実験、実習などを通して研究を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を学ぶ。また、基本的な概念や原理・法則を理解し、数学・科学的な考え方を養う。</p> <p>1 数学・科学の学習を通し、論理的なものの見方や考え方を身に付ける。</p> <p>2 実験、実習、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。</p>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心に基づき、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 様々なメディアを介して、意欲的に情報収集をおこなったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、実習に対し、問題意識を持ちながら取り組んでいるか。 教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 客観的な事実に基づいて、現象を科学的に判断することができるか。 自らの考えを的確に表現することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 物理、化学、数学に関わる計算や考え方を身につけたか。 自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。 論理的な構成を工夫し、適切な内容でまとめることができたか。 学習活動を通して、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、深めることができたか。
学習の評価	<p>1 ②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」に重点を置き評価する。</p> <p>2 ポスターやまとめの状況等で①「関心・意欲・態度」、④「知識・理解」を、実験・実習で③「技能・表現」を評価する。</p> <p>上記の2点を考慮し、総合的に成績を算出する。</p>			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
<ul style="list-style-type: none"> テーマ,内容, 調査方法の検討 テーマ,内容, 調査方法の決定、活動計画の作成 各グループの課題に対する調査、研究、実験等の実施 中間発表に向けてのまとめ、ポスター作成等 発表会に向けてのまとめ、ポスター作成等 		<ul style="list-style-type: none"> テーマに対する調査、検討が十分行われているか。 教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 客観的な事実に基づいて、現象を科学的に判断することができるか。 自らの考えを的確に表現することができたか。 各グループの課題に沿って、考えを広げ、深めることができたか。 実験、実習に対して問題意識を持ちながら取り組めたか。 論理的な構成を工夫し、適切な内容でまとめることができたか。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	3	理数	理数物理	5
教科書		副教材		
改訂版総合物理1、改訂版総合物理2(数研出版)		リードα 物理基礎・物理 (数研出版) 物理重要問題集(数研出版)		
到達目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考、判断、表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び各種テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
総合物理1 第1編 力と運動 第5章 円運動と万有引力 4 万有引力 第2編 熱と気体 第2章 気体のエネルギーと状態変化 1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化 総合物理2 第4編 電気と磁気 第1章 電場 1 静電気力 2 電場 3 電位 4 物質と電場 5 コンデンサー 第2章 電流 1 オームの法則 2 直流回路 3 半導体 第3章 電流と磁場 1 磁場 2 電流のつくる磁場 3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力 第4章 電磁誘導と電磁波 1 電磁誘導の法則 2 交流の発生 3 自己誘導と相互誘導 4 交流回路 5 電磁波 第5編 原子 第1章 電子と光 1 電子 2 光の粒子性 3 X線 4 粒子の波動性 第2章 原子と原子核 1 原子の構造とエネルギー単位 2 原子核 3 放射線とその性質 4 核反応と核エネルギー 5 素粒子 物理学が築く未来		<ul style="list-style-type: none"> ・万有引力の法則、万有引力による位置エネルギーを理解する。 ・ボイルの法則、シャルルの法則を理解する。 ・気体分子の運動から、熱力学諸量を求められることを理解する。 ・断熱、定積、定圧、等温変化をボイル・シャルルの法則と熱力学第一法則を用いて理解する。 ・クーロンの法則と電気料保存則を理解するとともに、電子の移動の観点から静電気現象を理解する。 ・電場の概念を知り、電気力線を用いて電場の様子を表現する。 ・電位の概念を身に付け、電位と静電気力による仕事の関係を理解する。 ・導体や不導体内部での電場と電位の様子を理解する。 ・コンデンサーの性質を理解し、コンデンサーの電圧や電荷を定量的に扱える ・オームの法則を用いて電流や電圧を求められる。 ・キルヒホッフの法則を用いて回路各部の電流電圧を求められる。 ・半導体の性質を理解し、ダイオードやトランジスタのしくみについて学ぶ。 ・磁場の概念を知り、磁力線を用いて磁場の様子を表現する。 ・電流がつくる磁場の性質を理解し、磁場の強さを求められる。 ・磁束密度の概念を身に付け、電流が磁場から受ける力の強さを求められる。 ・ローレンツ力の性質を理解し、磁場中での荷電粒子の運動を説明できる。 ・レンツの法則とファラデーの電磁誘導の法則から、誘導起電力の向きと大きさを理解する。 ・交流の基本的性質を理解する、 ・回路中でのコイルの役割から、自己誘導と相互誘導の性質を理解し、変圧器のしくみを知る。 ・交流回路中のコイルやコンデンサーのはたらきを知り、位相差やリアクタンス、インピーダンスについて理解する。 ・電磁波の発生とその性質について理解する。 ・電子の発見について学び、電子の特徴を知る。 ・光量子説から光電効果を説明することができる。 ・X線の波動性と粒子性について理解する。 ・粒子の波動性について理解する。 ・原子のボーアモデルを理解し、量子条件と振動数条件からエネルギー準位を計算できる。 ・原子核について理解する。 ・放射性崩壊の特徴と放射線の性質を理解する。 ・核分裂と核融合を核反応式を用いて表し、放出されるエネルギーの利用について学ぶ。 ・素粒子の分類と特徴について学ぶ。 ・物理で学んだことが、日常生活や科学技術、社会発展と深い関わりがあることを学ぶ。 ・問題演習により、物理現象やその現象を支配する原理法則への理解を深める。 		
問題演習(重要問題集)		問題演習により、物理現象やその現象を支配する原理法則への理解を深める。		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	3	理数	理数化学	5単位
教科書		副教材		
化学 改訂版 (数研出版)		セミナー化学基礎+化学(第一学習社), 化学総合資料(実教出版), 重要問題集(数研出版)		
到達目標	<p>化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。</p> <p>1 物質とその変化について化学的な解釈や説明ができることを通して、知的好奇心を持って課題を見だし、主体的に解決しようとする意欲を高める。</p> <p>2 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解させる。</p> <p>3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。</p>			
評価の観点	<p>①関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。 	<p>②思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の中で問題を見出し、取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。 	<p>③観察・実験の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算方法を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。 	<p>④知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。
学習の評価	<p>1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。</p> <p>2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能」を評価する。</p> <p>上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。</p>			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
<p>第2編 物質の変化</p> <p>第1章 化学反応とエネルギー</p> <p>1 化学反応と熱</p> <p>2 化学反応と光</p> <p>第3章 化学反応の速さとしくみ</p> <p>1 化学反応の速さ</p> <p>2 反応条件と反応速度</p> <p>3 化学反応のしくみ</p> <p>第4章 化学平衡</p> <p>1 可逆反応と化学平衡</p> <p>2 平衡状態の変化</p> <p>3 電解質水溶液の化学平衡</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・結合エネルギーと反応熱の関係を理解している。 ・光化学反応や化学発光を理解している。 ・同じ反応でも着目する物質によって反応速度が異なることを理解している。 ・反応速度と濃度、温度、触媒、表面積の関係を理解している。 ・触媒を加えると活性化エネルギーは変化するが、反応熱は変化しないことを理解している。 ・化学平衡の法則を理解し、平衡定数を求めたり、平衡状態での物質の物質量を求めることができる。 ・温度、圧力、触媒などの条件がどのようにして決められているかを理解している。 ・塩の加水分解、弱酸・弱塩基の遊離、緩衝液、溶解度積について理解している。 		
<p>第4編 有機化合物</p> <p>第1章 有機化合物の分類と分析</p> <p>1 有機化合物の特徴と分類</p> <p>2 有機化合物の分類</p> <p>第2章 脂肪族炭化水素</p> <p>1 飽和炭化水素</p> <p>2 不飽和炭化水素</p> <p>第3章 アルコールと関連化合物</p> <p>1 アルコールとエーテル</p> <p>2 アルデヒドとケトン</p> <p>3 脂肪族カルボン酸と酸無水物</p> <p>4 エステルと油脂</p> <p>第4章 芳香族化合物</p> <p>1 芳香族炭化水素</p> <p>2 フェノール類</p> <p>3 芳香族カルボン酸</p> <p>4 芳香族アミンとアノ化合物</p> <p>5 有機化合物の分離</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物と無機化合物の相違点を明確に理解している。 ・構造式から性質や反応性を考察・判断できる。 ・構造異性体の関係を理解し、知識を身につけている。 ・代表的な官能基の性質に対する知識を身につけている。 ・炭化水素の性質や反応性がその構造に特徴付けられる事を見出し、異性体を論理的に考察する。 ・炭化水素の分類とその反応性との関係や構造異性体の関係を理解し、知識を身につけている。 ・官能基をもつ有機化合物の性質や反応性がその構造に特徴付けられる事を見出し、構造異性体や光学異性体を論理的に考察する。 ・酸素を含むものとしてアルコール誘導体を中心に、反応性と有機化合物相互の関連について、観察・実験を通して考察する。 ・芳香族炭化水素や、官能基をもつ芳香族化合物の性質や反応性がその構造に特徴付けられる事を見出し、構造異性体や光学異性体を論理的に考察する。 ・酸素を含むものとしてフェノール類、窒素を含むものとしてニトロ化合物、アミン類を中心に、反応性と有機化合物相互の関連について、観察・実験を通して考察する。 ・芳香族化合物の位置異性体の関係を理解し、知識を身につけている。 		
<p>第5編 天然有機化合物</p> <p>第1章 天然有機化合物</p> <p>1 天然有機化合物の種類</p> <p>2 単糖類・二糖類</p> <p>3 アミノ酸</p> <p>第2章 天然高分子化合物</p> <p>1 多糖類</p> <p>2 タンパク質・核酸</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・リン脂質と細胞膜について理解している。 ・糖の量的関係に関連する計算問題が解ける。 ・アミノ酸の等電点について理解している。 ・デンプンの加水分解に関わる計算問題を解くことができる。 ・タンパク質の成分元素について理解し、それに関する問題を解くことができる。 		
<p>第6編 合成高分子化合物</p> <p>第1章 高分子化合物の性質</p> <p>1 高分子化合物の構造と性質</p> <p>第2章 合成高分子化合物</p> <p>1 合成繊維</p> <p>2 合成樹脂</p> <p>3 高分子化合物と人間生活</p> <p>4 天然ゴムと合成ゴム</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物は、単量体が重合で多数結合してできた重合体であることを理解している。 ・合成繊維の量的関係についての問題が解ける。 ・合成樹脂の重合度について理解している。 ・合成樹脂のリサイクルについて理解している。 ・合成ゴムの原料、構造を性質を理解している。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	3	理数	理数生物	5
教科書		副教材		
生物(数研出版)		リードα 生物基礎+生物、生物標準問題精講、スクエア最新図説生物neo(実教出版)		
到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価基準)		
第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 第6章 植物の環境応答		<ul style="list-style-type: none"> ・外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応する仕組みを理解することができる。 ・刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解することができる。 ・植物が環境変化に反応する仕組みを理解することができる。 		
第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系		<ul style="list-style-type: none"> ・個体群とその変動について、生物群集の成り立ちと多様な種が共存する仕組みについて理解することができる。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率について理解することができる。 ・生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識することができる。 		
第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化 第9章 生物の系統		<ul style="list-style-type: none"> ・生命の起源と、その後の生物進化の道筋を理解することができる。 ・生物進化がどのようにして起こるのかを理解することができる。 ・生物はその系統に基づいて分類できることを理解することができる。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・ 人文社会科学科	1	保健体育	体育	3
教科書		副教材		
高等学校 改訂版 保健体育(第一学習社)		Active Sports 2017		
到達目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自分の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	学習状況での ①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③運動の技能 ④知識・理解を、実技テストで ②思考・判断 ③運動の技能 ④知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
体づくり運動	(1) 自己の体に関心をもち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。 (2) 互いに協力して運動を行う。 (3) 体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫することができるようになる。			
球技① サッカー・ハンドボール バスケットボール・卓球	(1) チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2) チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3) 勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。			
陸上競技	(1) 走跳投の技能を高め、競技したり、記録を高めたりする。 (2) 互いに協力して練習や競技を行い、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、健康・安全に留意して練習や競技ができるようになる。			
体育理論	(1) 運動・スポーツの文化的特徴を知る。			
球技② テニス・ハンドボール バレーボール	(1) チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2) チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3) 勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。			
武道 柔道・剣道	(1) 自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようになる。 (2) 伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、公正な態度と安全に留意して練習や試合ができるようになる。			
ダンス	(1) 自分の課題や自己の能力に応じた課題を解決し、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようになる。 (2) 感情を込めたり楽しく踊ったりし、互いのよさを認め合い、協力して練習や交流・発表ができるようになる。			
器械運動	(1) 技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようになる。 (2) 技の名称や行い方、体力の高め方などを理解し、自己や仲間に応じた運動を継続するための工夫ができるようになる。			
体育理論	(1) 現代社会における経済、政治、外交などへのスポーツが及ぼす影響を知る。			
球技③ バスケットボール・バドミントン	(1) チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2) チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3) 勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。			

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・ 人文社会科学科	1	保健体育	保健	1
教科書		副教材		
高等学校 改訂版 保健体育(第一学習社)				
到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③知識・理解	
	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	
学習の評価	定期考査で②思考・判断 ③知識・理解を、学習状況で①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
「現代社会と健康」 ・健康の考え方と私たちの課題 ・我が国の健康水準と病気の傾向 ・健康に関する環境づくり ・生活習慣病の予防 ・食事と健康 ・運動と健康 ・休養と睡眠		・健康の考え方やその保持増進の方法は、個人の適切な意思決定や行動選択が重要であることを理解する。 ・健康を保持増進し生活習慣病を予防するためには、食事・運動・休養及び睡眠ともに調和のとれた生活を実践することが必要であることを理解する。		
・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用とその予防 ・感染症の予防 ・性感染症とその予防 ・がんの予防 ・脳と神経の働き ・欲求不満と適応機制 ・心身相関とストレス ・ストレスへの対処 ・自己実現		・喫煙・飲酒及び薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について知り、喫煙・飲酒については適切な意思決定と行動選択を、薬物は決して行わないことが必要であることを理解する。 ・感染症の新たな問題について知り、その社会的な対策と個人の適切な行動を理解する。 ・がん発生のメカニズムや治療方法を知り、予防のための対策について理解する。 ・人間の欲求と適応機制には様々な種類があること及び精神と身体には密接な関連があることを理解する。 ・精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることを理解する。		
・交通と安全な行動 ・交通事故と安全の確保 ・安全な社会づくり ・応急手当の理解 ・心肺蘇生法の実践 ・日常的な応急手当		・交通事故を防止するためには、車両の特性を理解し、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度及び交通環境の整備などが重要であることを理解する。 ・交通事故には責任や補償問題が生じることを理解できるようにする。 ・心肺蘇生法の原理や方法に関して理解し、実践できるようになる。 ・日常的な傷害や疾病に対して、それに応じた基本的な応急手当の手順や方法を理解する。		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数学科・ 人文社会科学科	2	保健体育	体育	2
教科書		副教材		
高等学校 改訂版 保健体育(第一学習社)		Active Sports 2017		
到達目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高め、自分の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	学習状況で①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③運動の技能 ④知識・理解を、実技テストで②思考・判断、③運動の技能、④知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
体づくり運動		(1)自己に関心をもち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。 (2)互いに協力して運動を行う。 (3)体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫することができるようになる。		
球技(選択) サッカー ハンドボール 卓球		(1)チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2)チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3)勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。		
陸上競技		(1)走跳投の技能を高め、競技したり、記録を高めたりする。 (2)互いに協力して練習や競技を行い、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、健康・安全に留意して練習や競技ができるようになる。		
球技(選択) テニス バレーボール ソフトボール		(1)チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2)チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3)勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。		
選択 武道(柔道・剣道) ダンス		武道 (1)自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようになる。 (2)伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、公正な態度と安全に留意して練習や試合ができるようになる。 ダンス (1)グループの課題や自己の能力に応じた課題を解決し、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようになる。 (2)感情を込めたり楽しく踊ったりし、互いのよさを認め合い、協力して練習や交流・発表ができるようになる。		
球技(選択) バスケットボール バドミントン 卓球		(1)チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2)チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3)勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・ 人文社会科学科	2	保健体育	保健	1
教科書		副教材		
高等学校 改訂版 保健体育(第一学習社)				
到達目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③知識・理解	
	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	
学習の評価	定期考査で②思考・判断 ③知識・理解を、授業状況で①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
II「生涯を通じての健康」 ・オリエンテーション 1. 人生の各段階の健康 2. 思春期の心の成長 3. 思春期のからだの成長 4. 結婚生活と健康 5. 新しい生命の誕生 6. 幸せで健康な家庭づくり 7. 一生を通じての健康 8. 豊かな高齢社会の実現 [1学期末考査]		<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における心身の発達や健康問題について、理解する。 ・性に関する情報への対処など適切な意志決定や行動選択が必要であることを理解する。 ・健全な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解する。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康問題について理解する。 ・加齢に伴い、心身が変化することを形態面及び機能面から理解する。 ・中高年の健康状態、生活状況やこれらに対する種々の施策が行われていることを取り上げるとともに、高齢社会の到来に対応して、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることを理解する。 		
9. わが国の保健・医療制度 10. 保健・医療機関の活用 11. 医薬品と健康 12. さまざまな保健活動や対策 III「社会生活と健康」 1. 健康と環境 2. 大気と健康 3. 水と健康 4. 産業廃棄物と健康 5. 地球環境と健康 [2学期末考査]		<ul style="list-style-type: none"> ・わが国には、人々の健康を守るための保健・医療制度が存在し、行政およびその他の機関などから保健に関する情報や医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることを理解する。 ・生涯を通じて健康を保持増進するためには、自己の健康上の課題を的確に把握し、種々の医療機関および保健・医療サービスなどを適切に活用していくことが必要であることを理解する。 ・人間の生活や産業活動に伴う環境汚染などは、人々も健康に影響や被害をもたらすことがあることを理解する。 ・環境汚染防止および改善対策、法律等を理解する。 		
6. 環境衛生活動 7. 食品衛生活動 8. 健康のための環境と食品 9. 労働と健康生活 10. 労働による職業病 11. 労働による障害 12. 職場の健康・安全づくり [学年末考査]		<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性の確保や健康増進にかかる法律や行政・生産者・消費者の役割について理解する。 ・職業病や労働災害の質や量の変化、および予防のための安全管理と働く人の健康管理が必要であることを理解する。 ・働く人の健康の保持増進は、心身の両面にわたる総合的、積極的な対策の推進やメンタルヘルスケアの重要性、積極的な余暇の活用が大切であることを理解する。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	3	保健体育	体育	2
教科書		副教材		
現代保健体育 改訂版(大修館)		MY SPORTS 2016		
到達目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自分の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	学習状況で①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③運動の技能 ④知識・理解を、実技テストで②思考・判断、③運動の技能、④知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
体づくり運動		(1)自己の体に関心をもち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。 (2)互いに協力して運動を行う。 (3)体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫することができるようになる。		
新体力テスト		(1)自己の記録を正確に測定することができる。 (2)体力面での現状を知り、課題を見つけることができる。		
選 択	器械運動	(1)マット・鉄棒・跳び箱の運動について、技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。 (2)器械運動に主体的に取り組むとともに、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや健康・安全を確保できるようにする。 (3)技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を計るための取り組みを工夫できるようにする。		
	陸上競技	(1)競走・跳躍・投てきの運動について、記録の向上や協奏の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができるようにする。 (2)陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3)技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
	ダンス	(1)創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスについて、感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようになる。 (2)ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3)ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
	球技	(1)チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2)チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3)勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。		
	武道	(1)柔道、剣道について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防を展開することができるようにする。 (2)武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3)伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
選 択	球技	(1)チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2)チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3)勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	1	芸術	音楽 I	2
教科書		副教材		
MOUSAI (教育芸術社)		MUSIC NOTE (啓隆社)		
到達目標	1. 歌唱・・・様々な歌曲に親しませ、曲種に応じた発声や歌唱法を工夫させる。 2. 器楽・・・リコーダー、ギター、箏等の楽器に親しみ、さらにそれらを用いて豊かなアンサンブル表現を養う。 3. 創作・・・イメージに合わせて曲を編曲したり、創作したりすることができる。 4. 鑑賞・・・音楽の時代背景や音楽の諸要素に着目させながら鑑賞する能力を養う。			
評価の観点	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
	音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動しようとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫しようとしている。	音楽表現を工夫するために必要な技能を身につけ、創造的に表現している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、よさを味わって聴いている。
学習の評価	1. 筆記テスト、実技テストにより①、②、③を評価する。(各学期1回) 2. 鑑賞プリント、夏休みの課題により④を評価する。 3. 授業状況(表現・鑑賞への取り組み)により、1・2と合わせて総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
<楽しい歌声> 「校歌」 「翼をください」「ひまわりの約束」 <世界の歌> 「オー・ソーレ・ミーオ」 <リコーダー・ギターに親しむ> <劇音楽 I> 「ホールニューワールド」 <鑑賞> 時代区分による違い		・歌詞やリズムの変化など曲想を生かした表現を工夫している。 ・曲種によって発声を工夫して歌唱している。 ・名歌手の演奏を聴き、曲の特徴に気をつけながら進んで歌唱表現をしている。 ・楽器の奏法を理解し、楽器の特徴を生かして表現を工夫している。 ・ミュージカルに関心を持ち、場面に相応しい歌唱表現を工夫している。 ・時代区分による音楽の特徴を把握し、聴き取っている。		
<イタリア歌曲> 「カーロ ミオ ベン」 <ドイツ歌曲に親しむ> 「野ばら」 <劇音楽 II> 歌劇「フィガロの結婚」 歌劇「カルメン」 <鑑賞> オーケストラを知ろう <合唱の楽しみ> 「ふるさと」(混4) 「Oh happy day」 <リコーダー・ギターアンサンブル> <日本の伝統音楽>		・外国語の発音の特徴と、音楽のフレーズを結びつけた歌唱表現をしている。 ・原語の特徴や発声に気をつけた歌唱表現を工夫している。 ・ドイツ歌曲の特徴を理解し、聴き取っている。 ・物語の内容や歌劇の特徴を理解し、進んで鑑賞している。 ・オーケストラの特徴を理解して、進んで鑑賞している。 ・他のパートとのバランス・ハーモニーに気をつけて合唱表現を工夫している。 ・楽器の奏法や自分のパートの役割を理解し、アンサンブル表現を工夫している。 ・箏の奏法を理解し、それらの効果を感じ取り、表現しようとしている。		
<日本の歌> 「むこうむこう」「小さな空」 <アンサンブル>鍵盤楽器、ギター、箏、リコーダー、ハンドベル、パーカッションなど <世界の諸民族の音楽>		・歌詞の朗読や歌唱表現に進んで取り組んでいる。 ・日本語の歌詞の味わい(語感・抑揚)を生かした歌唱表現を工夫している。 ・自分たちのイメージに合った曲を編曲・創作し、演奏している。 ・様々な国の民族音楽に興味関心を持ち、その音楽の特徴を理解し味わっている。		

教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科・人文社会科学科	1	芸術	美術 I	2
教科書		副教材		
美術1(光村図書)				
到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
評価の観点	①美術への関心・意欲・態度	②発想や構想の能力	③創造的な技能	④鑑賞の能力
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的な機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現を構想する。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫する。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。
学習の評価	1. 課題作品の制作過程とその作品により①、②、③を評価する。 2. 授業態度と課題の提出状況により①を、鑑賞レポートにより④を評価する。 3. 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
オリエンテーション		・学習内容への興味関心を高め、制作や鑑賞への期待をもつことができる。		
鑑賞 — 美術への招待		・制作された時代や主題が異なる作品を比較鑑賞し、それぞれの制作の技術と表現の関係について理解をする。		
表現 — 絵画 鉛筆デッサン		・対象の観察を通して、色と形、明暗、量感、質感、空間、均衡や動勢などの造形要素を理解する。 ・デッサンの意義や表現の楽しさを理解し、意欲をもって取り組む。		
表現 — 絵画 油彩による静物画		・配置や視点によって表現効果が変わることを理解し、主題を生かす構成を工夫する。 ・材質感、空間表現、マチエールなどについて理解を深め、制作に生かすことができる。 ・油彩による描画の特性を生かした表現を工夫する。 ・自他の作品を鑑賞し、表現の工夫などについて理解を深め、自らの感想や意見を発表する。		
表現 — デザイン ペンスタンドの制作		・使う場面や用途、使う人の気持ちを考えてデザインを構想する。 ・陶土の特性や制作技法を理解し、素材の特徴を生かして表現を工夫する。 ・自他の作品を使用し、陶土の温かみや作り手の思いを感じ取り、日常生活の中にある美術文化への感性を高める。		
鑑賞 — リ・デザイン		・リ・デザインという言葉によるデザインの見直しの事例に関心をもち、身近な日用品などを通して暮らしと形や機能との関係を見直そうとすることができる。 ・日常生活の中にあるデザインに目を向け、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、暮らしとデザインについて理解する。		
表現 — デザイン サインデザイン		・身近な生活の中にあるサインデザインに目を向け、その役割や効果を理解する。 ・学校の環境を改善するために必要なサインデザインについて話し合い、改善案を考える。 ・必要な情報を見る人に伝えるために、色や形を工夫してデザインを制作する。		
表現 — 映像メディア しりとりアニメーション		・映像メディアの特性を理解して、意欲的に動画作成に取り組む。 ・メタモルフォーゼなどアニメーションならではの表現方法や、ユニークな動きの追求などテーマをもって制作に取り組む。 ・他者の作品とつなげることを理解して、表現方法を工夫し協調して創作を進める。 ・他者の制作した部分を正しく評価し、共同して一つの作品を作る達成感を味わう。		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科・人文社会科学科	1	芸術	書道 I	2
教科書		副教材		
書 I (教育図書)				
到達目標	書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。			
評価の観点	①書への関心・意欲・態度	②書表現の構想と工夫	③創造的な表現の技能	④鑑賞の能力
	書を愛好し、書作品や書制作に興味関心を持ち、意欲的に活動しようとする。	各作品の時代背景や作者、用筆・運筆等を理解し、自分なりの表現をすると共に基礎的な力を身につける。	自己のイメージを表現するための技能を身につけ、それを生かして創造的に表現する。	身のまわりにある書から、すぐれた芸術作品まで幅広く鑑賞し、多様な書表現への理解を深める。
学習の評価	1、毎回の提出物で②③を主に評価する。 2、①④を授業態度、臨書ノート、創作ノート、鑑賞レポート等を多面的に評価する。 3、1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
漢字の書の学習 木簡の学習 楷書の学習 ・鄭羲下碑 ・牛欄造像記 ・孔子廟堂碑 ・九成宮醴泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 楷書による創作 行書の学習 ・蘭亭序 ・祭姪稿 ・風信帖 行書による創作 篆刻の学習 展覧会鑑賞 書き初め		<ul style="list-style-type: none"> ・用具について理解するとともに、執筆法に習熟する。 ・円筆による雄大さを感じ取り、臨書できる。 ・方筆による魁偉な表現を味わい、臨書できる。 ・品格の高さを感じ取り、臨書できる。 ・計算された造形を感じ取り、引き締まった線で臨書できる。 ・特徴ある用筆法を理解し、澄んだ線で臨書できる。 ・筆の弾力を効かせた特異な用筆法を理解し、厚みのある線で臨書できる。 ・2文字から5文字の漢語でふさわしい表現ができる。 ・優雅で貴族的な雰囲気を感じ取り、ゆったりとした調子で臨書できる。 ・激しい感情表現を感じ、直筆で臨書できる。 ・計算された造形を感じ取り、引き締まった線で臨書できる。 ・2文字から5文字の言葉で創作する。 ・篆刻の伝統的美的様式を理解し、姓名印を刻す。 ・作品を直観的・かつ分析的に鑑賞し、感想をまとめることができる。 ・新年に相応しい漢語を揮毫する。 		
仮名の書の学習 ・用筆 ・高野切第3種 ・短冊の創作 ・色紙に創作 展覧会鑑賞 書き初め		<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の伝統的な書線美を感じ取り、書くことができる。 ・平明で優美な表現を感じ取り、リズムカルに表現できるとともに、ひらかなの成り立ちや平安朝の表記法が理解できる。 ・短冊の伝統的形式を理解し、短歌を一首書くことができる。 ・優れた散らし書きを鑑賞し、自分なりに構成を工夫し、短歌を散らし書きできる。 ・作品を直観的・かつ分析的に鑑賞し、感想をまとめることができる。 ・新年に相応しい俳句を美しい仮名で表現できる。 		
漢字仮名交じりの書の学習 ・漢字と仮名の調和 ・題字の揮毫 ・詩を書く		<ul style="list-style-type: none"> ・漢字と仮名の調和を考え、表現できる。 ・書籍やレコードのタイトルを、相応しい書風で表現できる。 ・自作他作の詩を、相応しい書風や構成を考えて創作できる。 		

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・ 人文社会学科	1	外国語	コミュニケーション英語 I	3
教科書		副教材		
Revised ELEMENT English Communication I (啓林館)		ELEMENT English Communication I Workbook(Advanced)、ユメタン(アルク)		
到達目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。具体的な言語活動は以下の通り。</p> <p>ア. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p> <p>1. 広くことばへの関心を高め、豊かな言語観を育てる。</p> <p>2. 英語の基礎的な知識や技能の修得を通して、コミュニケーション能力の養成を図る。</p> <p>3. 英語の学習を通じて、言語や文化に対する理解を深める。</p> <p>4. 音読を通して、英語を正確に読ませる。</p>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
学習の評価	<p>1. 定期考査や授業中の発表で②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。</p> <p>2. 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の参加態度で①「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>1の評価に2を加味し、総合的に評価する。</p>			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
Lesson 1 Rukugo in English!		<ul style="list-style-type: none"> ・かい枝さんが英語落語を通じて学んだことを理解する。 ・自己紹介をし、自分の好きな活動について書く。 ・英語の5文型, to不定詞と動名詞について理解する。 		
Lesson 2 Christian the Lion		<ul style="list-style-type: none"> ・ジョンとエースのライオンとの生活について理解する。 ・これまでにペットを飼ったことがあるか、その経験または希望について話し合う。 ・現在完了形, 受動態, 分詞の限定用法について理解する。 		
Lesson 3 Prediction of the Future		<ul style="list-style-type: none"> ・アシモフが未来を予想した内容について理解する。 ・50年後の世界がどうなっているか意見を述べる。 ・S+V+O(疑問詞節・if節), 関係代名詞について理解する。 		
Lesson 4 Twice Bombed, Twice Survived		<ul style="list-style-type: none"> ・山口さんが被爆をした経緯と、自らの経験を伝えた方法について理解する。 ・自分の使命は何かについての意見を文章に書く ・助動詞+受動態, 主張・提案などを表す動詞のthat節における動詞の原形, 過去完了形について理解する。 		
Lesson 5 Umami		<ul style="list-style-type: none"> ・うま味とはどのようなものかを理解する。 ・アメリカ人の友人に和食について説明する手紙を書く。 ・助動詞+受動態, 要求・提案などを表すthat節における動詞の原形, 関係代名詞のwhatについて理解する。 		
Lesson 6 The Story of PlayPumps		<ul style="list-style-type: none"> ・プレイポンプの計画について理解する。 ・水不足を解決するための計画を発表する。 ・関係代名詞の非限定用法, 形式主語のitについて理解する。 		
Lesson 7 Biomimetics		<ul style="list-style-type: none"> ・バイオミメティクスはどのような学問か、環境問題の解決のために活用された技術を理解する。 ・割り箸を使うべきでないという意見に賛同するか賛同しないか、討論をする。 ・現在完了進行形, 関係副詞, 形式目的語のitについて理解する。 		
Lesson 8 The Power of Presentation		<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック招致のプレゼンテーションにニックが協力することになった経緯を理解する。 ・老捨分の学校について中学生に説明する。 ・仮定法過去, 仮定法過去完了について理解する。 		
Lesson 9 Bopsy		<ul style="list-style-type: none"> ・ボブシーの夢はどのようなものか、ボブがボブシーのためにどんな計画をしたか理解する。 ・自分の夢についてスピーチ原稿を書き、発表する。 ・S+V+C(分詞), S+V(知覚・使役動詞)+O+C(分詞・原形不定詞), 関係代名詞のwhatについて理解する。 		
Lesson 10 Playing the Enemy		<ul style="list-style-type: none"> ・南アフリカの黒人と白人が親密になるために、マンデラがスポーツを利用しようとした経緯、スプリングボクスの選手たちが刑務所を訪れた際に悟ったことをつかむ。 ・アパルトヘイト政策中の南アフリカの写真を見て、写真からわかる南アフリカの様子を文章に書く。 ・過去完了進行形, 進行形の受動態, 分詞構文について理解する。 		

	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科・人文社会科	1	家庭	家庭基礎	2
教科書	副教材			
新家庭基礎21	生活学Navi (実教)			
到達目標	1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 2. 学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度 家庭生活について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むと共に、実践的な態度を身につけている。	②思考・判断・表現 家庭生活について見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫・創造する能力や表現する能力を身につけている。	③技能 家庭や地域の生活を向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	④知識・理解 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
学習の評価	1 定期考査で主に②思考・判断・表現、④知識・理解を評価する。 2 授業や実験・実習の態度やワークシートの作成状況により①関心・意欲・態度、実験・実習のレポート提出状況で②思考・判断・表現、ホームプロジェクト等の取り組み状況から①②③④を多角的、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)	学習到達目標(評価基準)			
1編 自立して生きる 1章 「自立する」とは 2 青年期の自立をどう実現する? 3 よりよい人間関係を築くには? 4 ひとりで暮らすために必要なことは?	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の自立を目指して青年期の課題に関心を持って取り組んでいる。 ・「4つの自立」について必要な基礎的・基本的な知識をみにつけよう意識している。 ・自分の考えを表現できるとともに、他者を尊重して行動することができる。 			
2章 楽しく安全に食べる 6 食事作りのポイントとは? 3章 選んで着る 1 今何を着ている? 2 衣服でこんなトラブルが? 3 衣服は何で出来ている? 4 洗濯・手入れ、考えている? 5 衣服はどこからどこへ? 6 衣服を着る意味とは?	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で自分の食生活が行えるように、調理の基礎を学ぶ。 ・被服のさまざまな役割を整理する。 ・被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ・汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ・生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 ・実習に積極的に取り組み、基本的な縫いやアイロンがけができる。 			
※ホームプロジェクト事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・生活のなかから課題を見だし、課題解決に向け意欲を持って計画的に取り組むことができる。 			
※ホームプロジェクトの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見出す→題目を決定する→実施計画をたてる→実施する→評価する→一次の実践への手順で課題に取り組む、生活の改善に努めたか。 			
2編 支え合って生きる 2章 子どもと生きる 1 子どもから何をを感じる? 2 子どもが育つ環境はどうなっている? 3 子どもの育ちを支える場とは? 4 子どもはどのような権利を持っている? 5 子どもを育てるのにどのような支援がある? 6 子どもが発達するとはどういうこと? 7 子どもの生活で気をつけたことは? 8 子どもにとっての遊びとは? 9 親になるとはどういうこと?	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育つ力と発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ・子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 ・子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 ・児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 			
1編 自立して生きる 1章 「自立する」とは 1 これからの生き方をどうデザインする? 2編 支え合って生きる 1章 多様化した社会を生きる 1 家族はどう変わってきたか? 2 家族をめぐる課題はどう向き合う? 3 家族をめぐる法律はどうなっている? 4 多様な生き方の保障とは? 5 ライフキャリアをどうつくる? 3章 支えあい・共に生きる 1 命と暮らしを守るには? 2 支え合いの仕組みとはどうなっているか? 3 高齢者とそれを支える仕組みはどうなっているか? 4 貧困とそれを支える仕組みの現状は? 5 障害者の現状とそれを支える仕組みの現状は? 6 福祉のあり方はどう変わっているか?	<ul style="list-style-type: none"> ・晩婚化、非婚化、多様な労働形態、離婚率の高さなどの現状を理解する。 ・家族・家庭生活のあり方に関心を持ち、男女が協力して家庭や社会を築くことの重要性を考えようとしている。 ・男女共同参画、ワークライフバランスをふまえた家事、職業労働のあり方について考え自己実現のためにパートナーと話し合う姿勢がもてる。 ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。 ・障がい者に関する福祉について学び、障がい者を支える制度と課題を考える。 			
1編 自立して生きる 2章 楽しく安全に食べる 1 からだと心の健康をつくる食生活とは? 2 どれだけの栄養が必要か? 3 栄養素のはたらきとは? 4 食品をどう見分けるか? 5 食品を扱う際に注意する点とは? 6 食事作りのポイントとは? 7 食の安全は守られているか? 8 日本の食の課題とは? 5章 消費社会を生きる 1 私たちをとりまく消費生活はどうなっているのか? 2 情報化の中での消費生活とは? 3 グローバル化の中での消費生活とは? 4 自立した生活の必要なお金の管理とは? 5 「金融自由化」のなかでのお金の管理とは? 6 「商品を買う」とはどういうこと?	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の食生活を振り返る。 ・日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ・基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 ・食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるように努力する。 ・キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ・大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。 ・今までの学習を踏まえ、健康的・経済的な献立作成ができる。 ・自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。 			
4章 人間らしく住む 1 人間にとって住まいはなぜ必要か? 2 住まいの選びの視点とは? 3 住まいの間取りから何が読み取れるか? 4 健康で安全な住まいとは? 5 環境に配慮した住まい・住み方とは? 6 共に生きる住まい・まちとは? 7 住まう場を創り育てる方法とは?	<ul style="list-style-type: none"> ・住まい・住環境に関心を持ち、健康で安全かつ快適な住生活を考えようとしている。 ・住まいの機能を理解し、適切な住まいの選択ができる技術を身につけている。 			

教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科、探究科学科	2	情報	社会と情報	2
教科書		副教材		
最新 社会と情報 新訂版(実教出版)				
到達目標	1 情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性を理解させ、表現やコミュニケーションの手段としてコンピュータを有効活用できる能力を養う。 2 情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解させ、情報社会に参加するうえで望ましい態度を身に付けさせる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性に関心を持つ。情報の表現やコミュニケーションの手段としてコンピュータを積極的に活用し、情報社会に積極的に関わろうとする。	表現やコミュニケーションの手段としてコンピュータ用ツールを適切に活用し改善を図る。情報の収集・発信における様々な問題点を踏まえ、情報モラルやガイドラインに基づいた判断ができる。	情報のデジタル化の仕組みを理解し、コンピュータを活用して効果的に表現できる。情報通信ネットワークを活用し、情報収集や情報発信を適切に行うことができる。	表現やコミュニケーションのツールとしてコンピュータを効果的に活用するための基礎知識を理解する。情報化の進展が社会に及ぼす影響を踏まえ、適正な情報処理の重要性を理解する。
学習の評価	1 定期考査で上記の②③④を評価する。 2 授業状況及び実習課題で上記の①③を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
(オリエンテーション実習) ・ コンピュータとネットワークの基本操作 1章 情報社会と私たち 1 情報社会 2 情報とメディア 3 情報モラルと社会のルール 2章 情報機器とデジタル表現 1 情報機器とデジタル 2 デジタル表現 (メディア表現実習) 「アニメーションの作成」		・ コンピュータの基本操作やネットワークの使い方を理解し、適切に使用できる。 ・ 情報のデジタル化によるコミュニケーションの変化を理解することができる。 ・ 情報伝達における適切なメディアの選択について理解することができる。 ・ 情報を管理・保護する上での個人の責任の重要性を理解し、適切な活用を図ることができる。 ・ 情報機器の種類と特徴、情報の処理について理解することができる。 ・ 画像処理ソフト等を用いたデジタル表現のしくみについて理解することができる。 ・ 画像処理ソフトを使って、表現力豊かなアニメーションを作成することができる。		
3章 表現と伝達 1 表現の工夫 2 表計算ソフトの利用 3 プレゼンテーション 4章 コミュニケーションとネットワーク 1 コミュニケーション 2 ネットワーク 3 情報セキュリティ (プレゼンテーション実習兼ネットワーク実習) 「模擬ゼミ(論文紹介)」		・ 案内状や企画書を作成する際、文字・表・図形・画像などを工夫して利用することができる。 ・ 表計算ソフトの機能を使ってグラフやデータ抽出を行うことができる。 ・ プレゼンテーションソフトを使って効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 ・ さまざまなコミュニケーションの分類とそれぞれのコミュニケーションの留意点について理解することができる。 ・ WWWについて学び、ブラウザでWebページを表示する仕組みについて理解することができる。 ・ コンピュータウイルスの種類や被害の状況、及びその対策について理解する。 ・ 論文閲覧サイトから自分の興味のある論文をダウンロードし、その論文の内容についてわかりやすく解説したレジメを作成し、発表することができる。		
5章 情報社会と問題解決 1 情報システムと人間 2 問題解決 3 情報発信 (マーケティング実習) 「アンケート調査」		・ 情報社会の課題について、自分の考えをまとめることができる。 ・ プレーンストーミングやKJ法など問題解決に向けたアイデアの収集と分類について理解することができる。 ・ Webサイト制作の流れについて理解し、Webサイトの評価方法について学ぶ。 ・ アンケートで得たデータをコンピュータを使って分析することができる。		

教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	2	情報	情報の科学	2
教科書		副教材		
最新 情報の科学 新訂版(実教出版)				
到達目標	1. 情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させる。 2. 情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させる。 3. 情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。
学習の評価	1 定期考査で上記の②③④を評価する。 2 授業状況及び実習課題で上記の①③を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価基準)		
(オリエンテーション実習) ・コンピュータとネットワークの基本操作 序章 情報社会と私たち 1章 情報とコンピュータ 1. 情報の表し方 2. コンピュータでのデジタル表現 3. コンピュータの仕組み 2章 ネットワークの仕組みと情報システム 1. ネットワークの仕組み 2. 情報システムと情報セキュリティ (実習)デジタル表現、ネットワーク		・コンピュータ教室でのマナーを理解する。 ・情報の信憑性を判断することや、法律に従い、モラルとマナー守ることの重要性を理解する ・デジタルデータの特徴を理解する。 ・数値、文字、音、画像などをコンピュータがどのように表現しているのかを理解する。 ・コンピュータの動作のしくみを理解する。 ・コンピュータネットワークの基本的な構成と動作のしくみを理解する。 ・情報セキュリティ技術のしくみを理解する。 ・情報システムの種類や特徴を知り、利用する際の注意点について理解する。		
3章 問題解決のためのコンピュータ活用 1. 問題解決 2. アルゴリズム 3. モデル化とシミュレーション 4章 ネットワークとデータベースの活用 1. ネットワークの活用 2. データベース (実習)プログラミング、シミュレーション、データベース		・問題解決の基本的な流れを理解する。 ・基本的なアルゴリズムを理解する。 ・簡単なプログラムの作成方法を習得する。 ・問題解決の対象をモデル化する方法を理解する。 ・モデル化された問題をシミュレーションを用いて解決することに取り組む。 ・ネットワークを利用して情報を共有する方法について理解する。 ・ネットワークを利用して情報を収集する方法について理解する。 ・データベースについての基本的な考え方を理解する。 ・簡単なデータベースを作成することに取り組む。		
5章 情報技術と社会 1. 情報化による生活の変化 2. 情報技術による社会の発展 (総合実習) 「課題解決」		・情報化が人間や社会に及ぼす影響について理解する。 ・よりよい情報社会を構築するためのさまざまな考え方や工夫について理解する。 ・情報社会に関連する法律の目的や内容を理解し、行動できる。 ・様々な情報技術を組み合わせて、課題解決に取り組める。		